

表2 生活障害評価表

I 歩行・移動：多くのADLの出発行為：行為行動の最初に来る

生理機能 歩行能力

概念 目的地に行くこと

		各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか	全介助のきっかけとなる生活障害
0101	方向感覚：ナビゲーション	<p>A：トイレの場所がわからない・覚えられない。</p> <p>C：一人で自家用車を運転し高速道路に乗り、降りるインターチェンジを間違えてUターンしそのまま本線を逆走してしまった。自室の場所がわからず探される。</p> <p>D：左右がわからない・行こうとするけれどどうすればいいかわからない。</p> <p>E：目的地に向かうが、車で移動した場合、到着しても理解できず、車から降りない。</p> <p>F：フロア内を歩き回り、声を掛けると罵声をあびせる。</p> <p>G：目的地の位置を理解していない。</p> <p>I：居室が分からなくなる</p> <p>J：トイレ・居室がわからない(間違えて他者の部屋に入る・放尿など)。</p> <p>K：右・右と動きがちな人が多い(聞き手・利き側に影響されやすい)。</p> <p>L：半分以上できる：食堂・居室・トイレ以外はわからない。訓練室から戻るとここはどこなの?と聞く、帰宅欲求の際に出口を探して棟内を歩いている。</p> <p>L：できない：廊下、ホールを本人の世界のなかで歩いている印象。</p> <p>M：自分の思ったところに行くことができずうろろする。</p>	<p>A：都度、指を指す(見守り時期)。</p> <p>C：警察と相談し免許停止となりました。しばらくは納得されず、数回近くの交番に再交付の相談に行かれていましたが…。居室の名前表示を大きくし、廊下の要所にて表示。</p> <p>D：手が触れるくらいのポジションで、聞き取りやすい言葉をかける。</p> <p>E：話題を変えて気分転換を図る。</p> <p>F：声を掛けずに通りすぎるときに笑顔でアイコンタクトを重ねる。</p> <p>G：手引き誘導</p> <p>I：居室の入口に目印をつける。</p> <p>J：わかりやすい案内の掲示(名前・札など)、導線の把握、p-トイレの導入。</p> <p>K：近くに置く・目印をつける・声をかける・目的を助言する。</p> <p>L：居室に大きく名前をはる 部屋に本人のなじみのものを置く(本人もちの人形) トイレは「便所」と明示⇒理解できるようになった。他の場所はその都度案内。</p> <p>L：誘導したい場所に手招き、またはやさしく手を添えて誘導、目的は簡単な単語をくり返しての説明。</p> <p>M：介護者の指示が伝わらないので手引き誘導する。</p>	5
0199	その他	<p>A：戻ってきても席を忘れてる。</p> <p>G：なかなか、起立しない。</p> <p>J：危険認識なく移動を行うため、転倒につながってしまう。</p> <p>J：指示が入らず、動作が協力的に行えない。そのため強引な介助になり内出血などに繋がるケースあり。</p> <p>J：プレーキのかけ忘れ、間違った杖の使用。</p> <p>J：足が出ない。</p> <p>K：右・左等、声をかけると動けなくなってしまう。</p> <p>L：歩行は半分以上できる：歩行中にボールを投げるしつこくしたり、しゃがもうとする際に不安定さあり。</p>	<p>A：都度、指を指す(見守り時期)。</p> <p>G：誘導者に興味を向かせるように、会話をする。</p> <p>J：適切な福祉機器の提供・導線の環境整備・鈴やキャッチセンサーの使用。</p> <p>J：名前を呼び、動作を行うことを伝え、目標を提示し注意が向くように声掛けを行う。(わかりやすい声掛け。例：一緒に歩きましょう。あの椅子に行きましょう。窓の外を見に行きましょう。)</p> <p>J：プレーキの延長バーでわかりやすく、声掛け。</p> <p>J：「1.2.1.2」など号令をかけて動作を促す。</p> <p>K：後方から肩を支え目的方向に押すとスムーズに方向を変えられる。</p> <p>L：本人に付き添い転倒しないように見守る。</p> <p>M：しばらく本人が思った通りに歩いてもらう。</p>	2

II 排泄

II - 1 大便

生理機能 便意がある、それがわかる

概念 大便排泄はトイレで行うものである

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか	全介助のきっかけとなる生活障害
-------------------------	--------------------------------	-----------------

1) トイレに行く

0210101	移動	<p>A : 杖を忘れる 杖を持つ側を迷う。 C : トイレの場所がわからない。 D : 場所が分からない、歩けないのに歩こうとする。 E : 本当は行きたいのだが、「頭が痛い」等と言い立ち上がることが出来ない。 F : 立ち上がってくれない・バランスが取れない・歩を進めない。 G : 目的地の位置を理解していない。 H : トイレの場所が覚えられず探し続ける／拒否。 I : トイレの場所が分からない。 J : トイレ誘導の拒否(大声・暴力・無動)。 K : トイレの場所が解らない。行こうとするが個室に入ることを戸惑う。 L : 歩行はできるが場所の認識はできない: 廊下、居室で排便をしようとするそのときに、トイレに誘導しようとする大声だしたり、手を振り払うなどの拒否あり。 M : トイレの場所が分からずうろろする。</p>	<p>A : ①指摘、②職員の見守り介助をやめてもらう。 C : トイレの表示を「便所」に変える。廊下にトイレまでの“→”表示を行う。 D : サイン・頼める存在になる(選ばれる) サインを読み、意思を確認する。 E : トイレ以外の言葉がけとして、例「手を洗いにいきましょうか」等。 F : 二人介助で立位のバランスを取ってから歩を進めるよう介助。 G : 手引き誘導。 H : 「便所」と貼り紙をする。一定のトイレへ誘導する／肩をなでたり、腕を組んで安心してもらう。 I : トイレに目印。同席をシンプルにする。 J : 声掛けのタイミング(席を立った時に誘導など)をはかる。 K : トイレ行きましようと言をかけ続ける。印をつける。ドアを開けておく。 L : 股間を触ったり、怒りっぽくなり落ち着かないような時は「オシッコ?」と確認する。そうだと返事があった場合は誘導したい場所に手招き、またはやさしく手を添えて誘導。 M : 場所を示す。声かけ手引き誘導。</p>	4
0210102	トイレのドアを開ける	<p>A : 開け方がわからない。 E : トイレの前まで行くと「ここじゃない」「此処には用はない」と開けようとしな F : ドアを開ける動作をしない中に入ることがわからない。 J : ドアのモードに対応できない。(引き戸を強引にひっぱるなど)。 K : 引き戸をドア方式に開けようとする。取っ手が違うと操作できない。 L : カーテンがないかのように突き進む。 M : ドアを認識できない。ドアの前でうろろする。</p>	<p>A : ドアを開けておく(事前に)。 D : →多くの場合開けてまっしてまっている。 E : ワーカーがドアを開け、「用が無くて安心だから。」「混み合う前に行こうか」。 F : 職員が扉をあけ、「トイレですよ」と指さす。 G : 基本的にはドアは開けたままであり、カーテンの開閉を職員が行う。 J : “→”などの表示。 K : 開けてあげて誘導する。矢印をつけ引き戸をイメージする。 L : 職員が行う。 M : ドアを開ける介助。</p>	5
0210103	トイレに入る	<p>C : 便器を見てもトイレだと認識できず、入ろうとしない。 D : すでに失禁の状態。 E : 「自分で出来るからついてくるな。」「どうして一緒に入ってくるんだ。」「 F : トイレ内に入ることを拒む。 G : 入っても「キャー」と言い、すぐに出て来てしまふ。 H : 拒否。 K : 入る前ズボンを下げようとする。ドアを開めようと体が半分出る。 M : トイレに入るがまた外に出てしまふ。</p>	<p>C : 排泄する場所であることを説明し手引き等で促す。 D : そのことに触れずに本人の語りの中で、本人の意思を向けるようにする。 E : 「換えの下着を持って来たから一緒に変えてあげようと思つて」「これだけ変えたらでるね」。 F : 職員が扉をあけ、「トイレですよ」と指さす。 G : 「キャー」と言い真似をして笑われ、興味を引き付ける。 H : 肩をなでたり、腕を組み安心してもらう。 K : 手すりを触らせて体の向きを変えやすくする。前にポスターを張る。 M : 声掛けしながら、トイレに再誘導。</p>	1
0210104	便器に至る	<p>A : 便器の前の方で座ろうとする。 C : 便器を見ても近付こうとしない。 D : 鏡に映る姿をみて、誰かいる。 E : 中の様々なスイッチや水槽のふたなどを気にしてさわり始めてしまい、座ろうとしない。 H : 拒否。 I : 便器が認識できず座らない。 K : 便器と自分の体を適応できない。 L : できない: 洗面台にむかったり、出て行こうとする。 M : 便器がわからず室内でうろろする。</p>	<p>A : 目印(手すり)を提示。 C : 排泄する場所であることを説明し手引き等で促す。 D : 介護者の立ち位置と意識をトイレに向ける言葉かけ。 E : 「この茶色い棒の所握れる?」と便器の一番近い場所に手で握るよう声かけ。 G : 手引き誘導。 H : 肩をなでたり、腕を組み安心してもらう。 I : 一連の動作を反復練習。ポータ和式トイレ設置。 K : 環境適応訓練練習は 反化できる可能性がある。 L : 『オシッコですなと繰り返しながらやさしく手を添えて誘導。 M : 便器の前に誘導する。</p>	4
0210105	施錠する	<p>A : 施錠はできる(無意識に)。 C : ドアを開けたまま排泄する。 F : 施錠しない・開錠できない。 I : 扉を閉めない。 J : 鍵をかけてでれなくなる、トイレ内での非常時の対応が困難。 K : 施錠の形状に対応できない。施錠のタイミングが不適切。 M : 施錠できない。</p>	<p>A : 開錠できない。 F : 「鍵をかせませんか」と声で誘導・開錠の手順をゆくと説明。 I : 気付かれないように扉を閉める。 J : 施錠は促さない。鍵の位置を見えない位置にする。 K : 施錠は出来ないようにしておく。 M : 施錠介助する。</p>	4
0210199	その他	<p>I : 便意がない。 K : 開錠して出られない オートマチックが出来ても考えて開けられない。 M : トイレがわからないので、植木や廊下の隅で排尿排便をしようとする</p>	<p>G : 基本的にはドアは開けたままであり、カーテンの開閉を職員が行う。 I : リハビリパンツ着用。排泄間隔をチェックし誘導。 K : 多くの動作が 無意識には出来ても指示出されると混乱する理解。 M : そわそわした様子が見られたらトイレに誘導する。トイレだと尿意便意が消えてしまふ事がある。何度もトイレ誘導し対応。</p>	1

2) 下半身の衣類を下げる

0210201	ベルト・ホック・ボタン・ファスナーなどを外す・下す	<p>A : どうしてよいかわからない。 B : 下げることを認識できない。 C : ホックなどを外さずに下そうとする。紙おむつを無理に下そうとする。 E : 自分で外さず、ズボンをはいのまま座ろうとする。 F : 外せない、下ろせない、無理やり行って壊す。 H : 拒否。 I : 時間を要する。十分に下げられない。 J : 時間がかかる、十分に外せず失禁。 K : このような両手協同作業は、真っ先に困難を生じる。 L : できない、その行為はおこなわず座ろうとする。 M : 出来ない。無理やり下げようとする。</p>	<p>A : ゴムのズボン、スカートで上げ下げしやすく。 B : 「トイレ」を止め排泄のサインが出たら仕切り直す。 D : →困難ば場合、介護者でつい手を出してしまう。 E : もう一度立ち上がりついても、率直に。「ベルトを外しませんか」とまず、声をかける。 F : 「お手伝いしましょうか」と、一声かけてから下ろすきかけを作る。 H : 時間をかけて介護する・声掛けして動作促す。 I : ゴムひものつズボンを着用する。 J : 脱ぎやすい衣類の導入。ベルクロなどに変更。 K : これらの操作の必要ない衣類で支援する。 L : 職員が行う、ゴムが入っているズボンに替える。 M : ボタンやファスナーをはずす。</p>	6
0210202	ズボン・スカート、下着などを適切な高さまで下す	<p>A : 適切・概念理解が難しい。 B : 下げることを認識できない。 C : ズボン、下着などを全部脱いでしまう。 D : 自分ではOKと思っているが、下がりきらずに間に合わず、ひっかけ。 E : 濡れないように下まで、下げようとする「そこまで下げなくても」と恥ずかしい気持ちを表す。 F : 下げることを拒む・暴力をふるう。 G : 介助にて下衣を下すが、すぐに上げようとする。 H : 拒否。 I : 下着やハビリパンツを十分に下げられない。 J : きちんとおろせず、衣類を汚染してしまう。介助に対する拒否。 J : 立位保持困難。座り込んでしまう。 K : 通常スカートはまくりあげがこれを脱いでしまう後ろが汚れる。 L : できない、その行為はおこなわず座ろうとする。 M : 一度ズボンを下げてでもまた上げてしまう。 M : 介護者がズボン等を適切な高さまで下ろしても排泄しようとしていることを忘れて、自分でズボンをあげようとする。</p>	<p>A : 足首まで下げるのは良い。ほとんど下げていないので、それ以降は介助。 B : 「トイレ」を止め排泄のサインが出たら仕切り直す。 D : そのことを伝えると気分を害するので、着替えを準備し様子を見る。 E : ①タオルを腰に巻いて下げる。②下ろしたら、すぐに膝にタオルを掛ける。 F : 「お手伝いしましょうか」と、一声かけてから下ろすきかけを作る。 G : 両手に何を把持してもらう(手摺り・清拭等)。 H : 時間をかけて介護する・声掛けして動作促す。 I : ゴムが緩い下着やハビリパンツを着用する。 J : 拒否のある場合はあくまでも補助的に介助に入る。 J : 立位を保持するためにつかまるための椅子の設置。 K : 膝近くまで下ろすように支援する。 L : 職員が行う。 M : 声をかけてズボン等を下ろす。 M : 排泄中はそばで付き添い立ち上がりたり衣類に手をかけた時はさりげなくトイレにいることを伝えたり排泄を促す。</p>	5
0210299	その他	<p>A : スカートを履いている場合、すそを「たくし上げ」られない。 I : パットを使用していることを認識できない。 K : パットを落としてしまう パットの取り換えが出来ない。 M : 下着やパット等を見られることを嫌がる。</p>	<p>A : 介助。 I : リハビリパンツ着用。排説間隔をチェックし誘導。 K : パットの大きさや 形状 使い方は 重要。</p>	1

3) 便器の扱い

0210301	蓋を開ける	<p>A : ふたがあると、ふたを上げることがわからない。 B : 蓋として認識できない。 C : 蓋と便座を一緒に上げ座ろうとする。 E : 便器は解るが、開ける前に蓋を開けたまま座ってしまう。 F : 蓋を開けられない・蓋の上に座る。 G : 開けるが、すぐ閉じてしまう。 K : ふたを開けずに、立って用を足そうとする。開けてあるものを閉める。 M : ふたはあけることができない(常にあけてある)。ふたが閉まっているとそのまま座る。蓋をあける際便座まで上げてしまう。</p>	<p>A : ふたを上げたままにしておく。 B : 事前に開けておく。 D : →介護者がつい開けてしまう、若しくは開けてある。 E : 「ごめんね。私蓋開めちゃって」とこっちが先に謝り、「今蓋を開けるね」と立っていただく。 F : 「トイレの蓋をあけましょう」と言って、一緒にあける。 G : 声かけ模倣にて、理解を促す。 K : 便器のふたを外してしまふ。 M : 常に蓋をあけておく。 M : 蓋を閉めないであけておく。蓋を閉めないであけておく。</p>	4
0210302	便座に座る	<p>A : 「座る」言語指示がわからない。 B : 指示がわからない、振り向けない。 D : 体の向きを変えずにそのまま座る。 E : そこに座るといふ行為なし。立ったまま。 F : 体を突っ張らせて座ってくれない。 G : 自分から座ろうとしない。 H : できない。 I : 便が出るまで座ってられない。 J : 体幹が後方にひかれやすく、座位が保てない。 J : 座位保持困難。後方へ体幹が傾き、介助負担大 K : 便座とおしりの位置を調整できない、修正できない。 L : できる：便座の端に座る。 M : 座る認識がない(洋式は認識されにくい)。</p>	<p>A : 軽く腰骨を押す・誘導。 B : 向かい合わせ同じ動作を見せる。 D : 生活に支障はないので、そのまま。 E : 抱きかかえて位置を示し、一緒に座る。 F : 利用者の腰の位置に手を当て、便座に座れるよう体を誘導。 G : 腰を下ろすように、指示動作をする。 H : 動作を模倣してもらう。 I : 少し時間が経ってから再誘導。 J : 前方に指示できるものを設置(椅子など)。 J : 排泄時座位保持するために前方につかまれるように椅子など設置。 K : おなかと背中を優しくおろすような誘導をする。 L : 。 M : 便座の前に誘導し腰かけてもらう。</p>	8
0210303	便座に腰を下ろす	<p>A : 「座る」言語指示がわからない。 B : 指示がわからない。 D : 腰を下ろしきらずに、中腰で。 E : そこに座るといふ行為なし。立ったまま。 G : 下ろすが、臀部半分までしか座らない。 H : できない。 J : なかなか腰掛けようとする。 K : すぐ立ち上がろうとする。 M : トイレに座る認識が薄く便座に座れない。</p>	<p>A : 軽く腰骨を押す・誘導。 B : 言葉で促しつつ座らせる。 D : 外れたり間に合わなければ掃除、生活に支障はないのでそのまま。 E : 抱きかかえて位置を示し、一緒に座る。 G : 声かけ模倣にて、理解を促す。 H : 「便所」「座る」と単語で伝える・模倣してもらう。 J : 座ることを伝え、前傾姿勢を促す。 K : タオル等を手渡しして落ち着いてもらう。 M : 声掛けしながらゆっくり腰かけてもらう。</p>	5
0210304	体(お尻やペニス、会陰部)と便器の位置関係	<p>A : 便座の前方で回ろうとする。 E : 深く座らず、浅く座ってしまうため、尿がかかって衣類が汚れてしまう。 F : 正しい位置に座れない・男性便器から離れた距離から排尿。 G : 上手く座れない。 H : 浅く座っている。 K : 浅く腰かけてしまう。 L : 半分以下しかできない：便座の端に座り用を足すので便座が汚れることあり。 M : 定常な位置に座れない。横にお尻がみだした状態。</p>	<p>A : 目印(手すり)を提示。 E : 「もう少し後ろに座って」と声をかける。 F : 「もう一歩前にどうぞ」と声を掛けてからお尻を軽く押す。 G : 深く座るように誘導。又はジェスチャーにて指示する。 H : 「深く座る」ことを伝える。 K : 座る前の 足の位置を修正しておく。 L : 腰を下ろす際に本人の動きにあわせて腰部を後方にひく介助をして合わせる。 M : 声をかけてまっすぐに座りなおす。</p>	6
0210399	その他	<p>K : 目に付いたボタンを押してしまふ。 M : 和式トイレのように床にしゃがみこむ姿勢を取る。</p>	<p>B : 自宅のトイレと同じ状況のトイレを使用する。 K : タオル等でかきつけて気づかないようにしておく。</p>	1

4) 排泄する

0210401	排便行為：いきむ	<p>A：座ってしばらく、わからない。 B：腹圧が掛けられない。 D：脱肛でいきめない・痛くてすぐに立つ。 E：いきめないため座ってから長い時間を要する事がある。 F：いきむ行為を誘導できない。 G：不快であるかいきめない。 K：つい 肛門部に手をやって触ろうとしてしまう。 M：尿意を感じなくなるのか座っても排泄しない。 M：便座に座っていると排泄していることを忘れ立ち上がる時、衣類や便座を触り遊んでしまう。</p>	<p>A：腹部を軽く押す（誘発）。 B：笑わせたり前屈みにし腹圧をかけ声でいきみを意識させる。 D：水分の摂取、緩下剤などの薬物コントロール。 E：ワーカーが表情で、いきむ表情を見てもらい、同じリアクションをしてもらう。 F：職員はいきむ表情を見せる G：腹圧をかけるように介助する。出来ない場合は排便介助。 K：手圧をかけたり 前傾し腹圧をかけやすく支援する。 M：下腹部に力を入れるよう声かけ。 M：トイレであることを伝えお腹に力を入れていきむように声かけ。集中できない時は一度トイレから出て再度誘導する。</p>	4
0210402	動かない：迷入	<p>A：トイレ中であることをすぐに忘れて、立つ。 D：(なぜ、連れてこられているか) どうしてトイレにいる分らなくなる。 E：座ったまま立ちあがれない。 G：動いてしまう。 H：途中で立ち上がる。 K：落ち着かず途中で立とうとする。 M：途中でトイレに来ていることを忘れ立ちあがる。</p>	<p>A：職員が付き添う（見えない角度に立つのが肝要）。 D：再び躓かれる存在になれるように、関係の再調整、リセットしなおす。 E：本人の視界から外れてみる。 F：手に何かを持たせ、そちらに興味を向かせる。 H：歌を歌う・排泄中であることを伝える。 K：雑誌を手渡す、トイレを暖かくしておく、音楽やオルゴールをかける。 M：声かけても立ち上がるので体を押さえて座位の維持。</p>	2
0210403	出し切る	<p>A：わからない。 D：少しだけなのに、満足してしまいすぐに立ちあがる。 E：便の途中で、立ち上がってしまう。 F：排泄の途中で立ち上がる。 I：立とうとすると便が出る。 K：トイレが終わって拭こうとすると 便が出てしまう。 M：出たかどうか分からない。</p>	<p>A：腹部を軽く押す（誘発）。 D：無理に留めようとしな、機会をみて再び誘う。 E：側にいて話したり、歌ったりして一緒にいる。 F：「ゆっくりでいいですよ」と声をかける。 I：中腰までの立ち座りを反復し、便意を確認する。 K：腹筋の強化や 体幹筋の強化は助けになる。 M：トイレに入ってから時間を見ながら介護者が判断。</p>	2
0210499	その他	<p>J：トイレの回数、時間が長く30分以上便座で過ごす。・便困・軟便が続く。 K：前立腺肥大で排尿困難 ペニスに触るので飛び散るポータブルに立って排尿し飛び散る。 M：座っている途中で衣類を触ったりして落ち着かない。</p>	<p>J：排泄チェック、ナース、ドクターと排便コントロールを行う。 M：排泄に集中できない様子の時は一度トイレから出る。</p>	1

5) 後始末

0210501	紙でお尻を拭く	<p>A : わからない。 C : 手で便を拭きとり、そのまま壁などにつけてしまう。排便後、手で拭きとりスワップが指摘すると、どうして良いかわからず悩んでしまう。 D : 紙が極小で破れて指でふき取る感じ。 E : 拭く行為は出来るが、完全に綺麗に出来ない。 F : 拭けない。拭かない。 G : 手渡しした紙を小さく切ってしまう為、手に付いてしまう。 H : 拭かない。 I : 十分に拭きとれない。 J : 自発的に行わない。十分に拭き取れない。 K : 上手く拭けない、ウオッシュレットが使えなくなる。 L : 拭かずに下肢衣類をあげようとする。指示してもできず、怒り出すことあり。</p>	<p>A : 全介助か、紙を持たせ、肛門近くまで誘導。 B : 介助にて対応。 D : 紙をシングルからダブルへ、紙を切り箱に準備。 E : 拭き直しをする。「そんな汚いことまでして悪いね」とお礼を言われる。 F : 紙を手渡し「これを使ってください」と声をかける。 G : 説明の声かけが行いながら、介助行う。 H : 紙を渡す。 I : 介助する。 J : 1日1回、陰部洗浄し、清潔を保つ。 K : 介助する、下拭きタオルを使う。 L : たった際に暖かいタオルでふく(気持ちいいと応ずる)。</p>	7
0210502	立ち上がる	<p>D : 抱きかかえると介助を拒む、希望としない方法は拒否や怒り。 E : 便が出し切る前に立ち上がる。拭かないで、立ち上がり汚れる。 I : 立ちあがって拭きとれない。 K : 後ろから前に拭いて陰部を汚染してしまう、逆に背中を汚す。</p>	<p>D : 望みの方法を探る、尋ねる。後ろからを拒む、前からを拒むなど。 E : 側を離れずに見守っている。立ち上がりは「1 / 2 / 3」と声をかける。」 I : 座位で拭きとる。立位での拭きとりは介助する。 K : 立ちあがって中腰で拭くことが難しい。</p>	2
0210503	トイレトーパーを見つめる	<p>A : 見て何をやるものかわからない。 D : 自分で拭こうとしないので、そのまま見つけない、拭かないまま終わる。 E : 見つけることは出来るが、逆に出し過ぎてしまう。 F : 見つけられない。トイレトーパー自体がわからない。 G : 異食・収集がある為、設置していない。 I : 未使用のロールを居室にしま込む。 K : トーパーホルダーが気になってふたをいじってしまう。 L : できない。 M : 見つけられない時があるが自分で紙だと理解する。</p>	<p>A : 全介助。 D : 本人にちてもらえるような言葉かけ。どこまでの見極めが難しい。 E : あらかじめ、切って渡す。昔のちり紙を目的見える箱に用意する。 F : 紙を手渡し「これを使ってください」と声をかける。 G : その都度トーパーを手渡しする。 I : 予備のロールは少なめに設置。 K : 切ったたんでおいたものを箱に入れて使ってもらう。 M : 紙をとるように声掛けする。</p>	3
0210504	適切な長さまでトーパーを引き出す	<p>A : 適切な概念がわからない。 B : 長さが分からない。 C : トイレトーパーを多量に巻きと流す。また芯がついたままホルダーから外し、流してしまう。 D : ロールの半分くらい使ってしまう。あればあるだけ。 E : 出し口が解らず爪でひっかいてしまう。 F : 引出続ける。 G : 短すぎてしまう。 I : 適量を引き出せない。 J : 必要以上に使う、または少なすぎる。 K : 小さくちぎって散らかしてしまう。 L : できない。 M : できない場合がある。 N : トイレトーパーを必要以上に巻き取り部屋に持ち帰る。トーパーをたたく使用し便器内に流してしまう。トーパーを手洗いに捨てる。</p>	<p>A : 全介助。 B : 落とし紙で対応。 D : その都度使用する分を準備、巡回時にチェック。 E : 少し紙を長めに引き出しておく。 F : 「もう十分ですよ」と声をかける。中断しない時は紙を再利用。 G : 説明の声かけにて修正行う。 I : 切ったたんでおいたものを箱に入れておく。 J : あらかじめ切ったトーパーを用意しておく。 K : 切ったたんでおいたものを箱に入れて使ってもらう。 M : 紙を適当な長さで引き出す介助をする。 N : 居室の目につくところに余分なトイレトーパーを並べ、トイレから持ち出さないように声掛け、見守り。トイレに行く姿を見たら時間をみてこえがけする。トイレ内に予備のトーパーは置かない。備え付けのトーパーが少なくなってもわざと新しいものには変えない。介護者が使用後に確認する。</p>	5
0210505	引き出したトーパーを切る	<p>A : 切り方がわからない。 B : 切ることができない。 D : 麻痺などで、切れない、シャクれない。 E : トーパーをカッターで切らずちぎる。 F : 引出続ける。 I : ロールを切れない。 J : なかなか切れない。 K : 切らずにひきだした端で拭き長く垂らしてしまう。 L : できない。 M : できない場合がある。</p>	<p>A : 全介助。 B : 落とし紙で対応。 D : 時間をかければできるばあいでも、つい手助けしてしまう。 E : あらかじめ渡しておく。紙を大事にしてちぎる。 F : 切る手伝いをする。 I : 切ったたんでおいたものを箱に入れておく。 J : あらかじめ切ったトーパーを用意しておく。 K : 切ったたんでおいたものを箱に入れて使ってもらう。 M : 紙を適当な長さで切る介助をする。</p>	5
0210506	幾重にか畳む	<p>D : 畳まない、畳めない、極小。 E : 幾重にか畳んだトーパーを衣服の中に入れてしまう(隠してしまう)。 F : 畳むことができない。 G : 紙を畳まずに、小さく切ってしまう。 I : 上手に畳めない。 K : 紙で拭くことは、自立度Ⅲが境で困難になる印象。 L : できない。</p>	<p>D : シングルからダブルへ。 E : 本人の使用量に合わせて渡す(此处に様子を判断する=日常観察)。 F : 畳む手伝いをする。 G : 説明の声かけが行いながら、一緒に折るように介助する。 I : 切ったたんでおいたものを箱に入れておく。 K : 切ったたんでおいたものを箱に入れて使ってもらう。</p>	5
0210507	畳んだトーパーでお尻を拭く	<p>A : わからない。 C : トーパータオルをわたしてもほとんど拭かない。 D : 拭かない、拭いても届かない、ストライクじゃない、そのままズボンをおける。 E : 畳んだトーパーを更にちぎって拭く。 F : お尻以外の場所を拭く。 G : 紙を小さく切ってしまう為、手に付いてしまう。 I : トーパーがずれて手に便がついてしまう。 K : お尻やおもたにティッシュを詰めたり、くっけたままになる。 L : できない。 M : 拭く行為はするが十分に拭けない。</p>	<p>A : 全介助か、紙を持たせ、肛門近くまで誘導。 E : 汚れた場合手をきちんと洗うことで、対処する。 F : 紙をもっている手をお尻に導く、嫌がるときは拭く介助をする。 G : 説明の声かけが行いながら、介助行う。 I : 切ったたんでおいたものを箱に入れておく。 K : トーパーの質による影響がある。 M : 拭き残しがないよう拭きとる介助をする。</p>	5
0210508	拭き終わったトーパーを便器内に捨てる	<p>A : わからない、横のゴミ箱に捨てる。 B : 便器の横の床に捨てる。 C : 拭いた後のトーパーをポケットにしまう。逆にいつまでも拭き続ける。 D : 枠外にはずれる。落すと詰まるとして落としたりしない。 E : 拭いたトーパーを手に握っている。 F : 自分のポケットにしま込む。 G : 吹き終わったものを持ったままである。 J : どこに捨てていいのかわからず、ゴミ箱に捨てたり、持ち帰ろうとする。 K : 便器外に捨ててしまう。汚物入れが目につくとそれに入れる。 L : できない。 M : 便器に捨てるのが理解できない。</p>	<p>A : 全介助か、指を指す。 B : その場所にゴミ箱を置き対応。 D : 籠の準備。 E : 「中に捨てて良いよ」と位置を指さして示す。 F : 少し間を開けてからしま込んだトーパーを渡していただく。 G : 捨てるように声かけ。捨てられない場合は介助行う。 J : 声掛け、確認。 K : 床の材質を変え、掃除しやすくする。 M : 手を洗うよう促し手に持った紙から手を離してもらう。</p>	6
0210599	その他	<p>I : 未使用のロールごと便器に捨ててしまう。 J : トーパーの収集 K : 便の状況によって 後始末のしやすさが違う、汚れた手を紙で拭いたり壁に付けてしまったりする。</p>	<p>I : 予備のロールは少なめに設置。 J : 必要以上のトーパーは置かない。トーパーを固定。</p>	1

6) ウォッシュレットでお尻を洗い流す

0210601	操作ボタンを押す	A : できない、ウォッシュレットを知らない。 E : 操作出来る人が少ない。 K : 排泄前からボタンを押してしまふ。	A : 全介助。 E : ワーカーが操作する。 J : 介助に入るときは清拭で拭き取り清潔を保つ。 K : ボタン類をタオル等で隠して見えなくする。 M : 事業所にウォッシュレットがないので記入不可。	4
0210602	水流の方向にお尻を位置させる	A : できない、ウォッシュレットを知らない。 E : 難しくなかなか出来ない。 K : 水流に驚いて立ち上がっておろろする。 M : 水道栓がアップダウン方式だと使えない。	A : 全介助。 E : 水流を上下に調整。本人自身を動かさない。 K : 原則ウォッシュレットは使わない方が良い。 M : 水道栓の使い方を言う。	3
0210603	適切な時間、静止し続ける	A : できない、ウォッシュレットを知らない。 E : 「おしっこしてから何か出てきた」とびっくりする。 K : 刺激に反応して動いてしまう 反射的行為が出る。	A : 全介助。 E : 数回経験していただく。 K : 反動的行動については前もって起こることを説明すること。	3
0210604	立ち上がる	E : 出し切つてさえずれば、すんなりと立つ。 K : 排泄の途中で立ち上がろうとすることもある。	E : 「よかったね」「すっきりしたね」と声かけ。爽快感あり。	
0210699	その他			

7) 排泄物を流す

0210701	ハンドル・ボタンの操作	A : 「流す」を忘れている。 C : 流そうとしない (ハンドル等を探さない)。 D : いつまでも触ってはなれない。 E : 流さない。 F : 流さない。 G : 行おうとしない。 H : 押さない。 I : 排泄物を流さない。 K : 便器に向き合い、排泄前にハンドルをいじってしまう。 L : できない、流さずに出て行く。声かけも理解できない。 M : できない (意識がまわらない)。	A : 指示。 D : 便の確認をしようとするので、スタッフが居る場合が多い。 E : 特に指示することなくワーカーがさりげなく流す。 F : 利用者の手をハンドル・ボタンに誘導し一緒に流す。 G : 指示動作にて、実施可能。行えない場合は介助を行う。 H : ボタンの位置を伝える。 I : ボタン近くに大きな説明文をつける。 J : 自動洗浄。 K : 入り口で回転させ右手で手すりを持たせてしまふ。 L : 職員が行う。 M : 声かけすれば気がついてできる。	5
0210799	その他	A : 排泄は落ちていくものと思っている。 K : 何回も流してしまふ。	A : 現物を視覚確認して、流してもらふ。 K : 声をかける。	

8) 下半身の衣類を身に着ける

0210801	両脚を中に入れられるか?	A : できない、左右がわからない。 C : 排泄後 (大小便問わず) スポンや下着を下げてたままトイレから出てきてしまふ。 D : 足首を延ばさずそのままあげるので、抜けなくなる。 E : スポンを完全に脱ぐことなし。 K : 均等に効率よく上に上げられない。 L : 股間ぐらゐの高さまでひきあげ、腰まではかずに歩き出す。	A : 全介助、指示しすぎない。 D : 言葉の掛け方、足先、足甲に触れながら介助。 F : すぐに行為の修正をせず、「お手伝いしましょう」と声掛け後に介助。 K : 反対側・後ろと声をかける、手を添えて声をかける。 L : 職員が行う。 M : トイレの時ポトムを脱ぐ人はいない。	4
0210802	ボタン、ファスナーなどをかけられるか?	A : 時間がかかる、結果できない。 B : ファスナーを上げ忘れる。 D : フックなどが嫌で、したがない。 E : あげられない、止められない事が多い。 F : かけられない、無頓着。 I : ファスナーをあげられない。 K : かけては外しと 行為の完了が出来ない。 L : できない。	A : きっかけを言葉、指で指示。 B : 「開いてるよ」という声掛けで認識する。 D : ベルトなどで代用。 E : ボタン、ファスナーのないズボンに変更又は手伝ふ。 F : すぐに行為の修正をせず、「お手伝いしましょう」と声掛け後に介助。 I : ゴムひものズボンを着用。 K : ゴム糸で留めたボタンは操作しやすい。 L : 職員が行う、ゴムが入っているズボンに替える。	6
0210899	その他	C : 下着の中にシャツや上着を入れてしまふ。 J : パットをあてられない。肌着がでている。 I : パッドをぬく。リハビリの中に拭き取ったペーパーが入ったまま。	I : 介助する。 J : 定時にトイレ誘導し、確認。	

9) 手洗い

洗手の行為

0210901	水道栓を回す	A : 回すことを忘れる (手を洗つてと、職員が言うとうできない)。 C : レバー式水栓を回そうとする。 E : 上下左右回す事は出来るが、閉める事は出来ない。 F : いじるだけで、回せない。 G : 上下レバーが理解できない。 H : 使い方がわからない (当施設はレバー式)。 I : 水道栓の形状で戸惑う。 K : 水道栓の形状で戸惑う。 L : できない : 指示するが通りすぎる、別の話しをするなど。 M : 水道栓の形が変わるとできない。	A : 職員の指示を中止、離れて見る。 D : レバー式。 E : 一緒に手を持って行う。 F : さりげなく脇から水道栓を職員が回す。 G : 口頭指示にて実施可能。行えない場合は介助を行う。 H : 使い方を説明する。 I : 介助する。 J : 自動。 K : 手を添え一緒に操作 繰り返して習慣化出来る場合がある。 L : 職員が行う。 M : 声掛けする、水が出る方法を言う。	6
0210902	手を水流の下に位置させる	A : 水が出れば、可能。 B : 水が流れていても手を出さない。 C : 水が出ていても、そこに手を出さない。 D : 便器の水流の音に反応して、便器内で洗う。 E : 指先しか洗わない。 F : 水で遊ぶ・手を洗う行為ができない。 G : 手を出さない。 H : 手を出さない。 J : 自発的に行わない。 K : 洗わないのに、水栓を閉めてしまおうとする。 L : できない。	A : 水を出す。 B : 貯め水で対応する。 D : もう一度洗いなおす、一緒に洗う、否定しない、監督しない。 E : ワーカーが洗って見せる。 F : 水道の位置に職員が利用者の手を誘導する。 G : 模倣・声かけを行い、動作促す。 H : 模倣してもらふ・水を出す。 J : 手を持ち誘導、声掛け。 K : 行為遂行の一連 (ジェスチャー) の誘導。 L : 片手をゆっくと誘導しぬるま湯に触れさせる。 M : 手を洗つてと声掛け。	4
0210909	その他	C : 水を止めない (水道栓の使い方が分かっているにもかかわらず)。		1

石鹸をつける

0210911	石鹸つかむ	A : 石ケンって、どれですか？ C : 片手に持ったまま、握りしめてしまう。 D : つかまない。 E : 使用せず。 F : つかんで離さない。 J : 異食。 K : 石鹸を食べられてしまったことがあった。 M : 固形石鹸は分かるが液状石鹸は認識できない。	A : これが石ケンです。と実際に見せる。 D : シャボンネットに入れる、見つけやすくする。 E : 介助なし。 F : 「次に私も洗いますので石鹸を貸していただけますか」と声掛け。 J : 固形石鹸は見かない。 K : ネットに入れて下げておく。 M : 固形石鹸を置いておく。	2
0210912	手全体に行き渡らせるべく広げる	A : どうしたらいいですか？ C : 手もみをせずにすぐに水で流してしまう。 E : 使用せず。 F : 広げられない・一部分だけを撫でまわしている。 K : 小さく ごしごしになりがち 手の甲は洗えない。	A : 初めにやって見せる。一緒にする。 D : スタッフと一緒にいきわたらせつつ、そのまま洗う。 E : 介助なし。 F : 職員が隣にたち、洗い方をみせる。 K : 石鹸を使わなくてもいいのでは 吹きつけの除菌活用。	3
0210913	液状石鹸を手につける	A : どうしたらいいですか？ C : ポンプの下に手を置かずに出してしまう。 D : 準備はしてあるが、つかう人はあまり見ない。 E : ポンプの下に手を弱すことは出来るが、押せない。 F : 液状せっけんが石鹸であることがわからない・無関心。 G : 液体石鹸であり、ポンプを押しきれない。 I : 液状石鹸を使わない。認識できない。 J : 自ら行わない。 K : ポンプを押して反対側の手に出すことは難しい。 L : つけずに水のみで洗う、これと差し出すとポンプ式が理解できず傾ける。 L : できない。 M : 石鹸と認識できないことがある。	A : 初めにやって見せる。一緒にする。 D : 多くの場合はスタッフ用になっている。 E : 上から押し上げる。 F : 職員が隣にたち、洗い方をみせる。 G : 介助を行う。 I : 固形石鹸を使用する。 J : 誘導・声掛け。 K : 手を広げてと支援し、介助することが多い。 L : ジェスチャーをするなどで模倣可能。 L : 職員が本人の手掌につける。 M : 石鹸を手に出す介助をする。	3
0210914	手全体に広げる	A : どうしたらいいですか？ C : 手もみをせずにすぐに水で流してしまう。 E : 広げる事はしない。 G : 手に広げる前に、顔を洗ってしまう。 H : 広げない。 K : 指先には広げない事が多い 指を開排することが少なくなる。 L : できない；つけてもそのまま動き出す。 M : 液状石鹸だと認識できず顔に塗ったり飲んだりしてしまう。	A : 初めにやって見せる。一緒にする。 E : 手を合わせて一緒に洗う。 G : 顔に興味が多らないように、職員が間に入り介助する。 H : 模倣してもらう。 K : 指先の刺激・感覚回避傾向を改善する作業療法も必要。 L : 職員が全体に広げる。 M : 液状石鹸は介護者の見守りで使用する。	4
0210919	その他	K : 元々石鹸を使って洗う習慣がない人も多い。		

すすぎ

0210921	蛇口の下に手を置く	A : 水が出れば、可能。 B : 水が流れていても手を出さない。 C : 水が出ていても、そこに手を出さない。 D : 場所に手を伸ばせない。 E : 水の出ている下に手を置くことは出来る ◎。 F : 手に限定して置くことができない・水びたしにする。 G : 手を出さない。 H : 手を出さない。 K : 空間定位・遠近感等ははずれてきやすい。 L : できない。 L : できない。 M : 水がでればできる。	A : 水を出す。 D : そばで支える。 E : 介助なし。 F : 手の位置をさげなく蛇口の下に誘導する。 G : 模倣・声かけを行い、動作促す。 H : 「手を洗う」と伝える・模倣してもらう。 K : ゴルフボール ホッケーなどの活動が訓練として効果的。 L : 片手をゆっくりと誘導しぬるま湯に触れさせる。 L : 片手をゆっくりと誘導しぬるま湯に触れさせる。	6
0210922	全体を洗い流す	A : どうしたらいいですか？ C : 泡が残っていても、水を止めてしまう。 D : 流水の感覚や音が怖い、手を入れたがらない。 E : 手の甲を洗う事を嫌がる。 F : 途中で行為を中断する・泡のついたまま他の行動をする。 G : 石鹸が残っていることあり。 H : 洗い残しがある。 K : 全体に目が見えない、手を見ないで鏡が気になる。 M : 洗い残しがある。	A : 隣でやって見せる。 D : 洗面器に溜めて、その中で洗う。 E : 洗って見せる。まねしてもらう。 F : 「もう少し綺麗になりますよ」の声掛け。濡れたタオルで拭く。 G : 声かけし、再度洗い流すように促す。 H : 残っている部分を伝える。 K : 一緒に洗う。 L : 職員が介助する。 M : 介護者が手洗いの介助をする。	4
0210929	その他			

手を拭く

0210931	タオル等に向かう	D : 位置が分からない、向かわず自分の服やスタッフのエプロンで。 E : 雑巾、タオルの区別出来ず。布なら何でも拭こうとする。 F : タオルは拭くものであることがわからない。 I : ペーパータオルが認識できない。 K : タオルかけからタオルを外そうとする、外せずに戸惑う・ペーパータオルは引き出せなかったり、全部出してしまうりする。 L : できない；ふかずに離れてしまう。 M : できる時もあるが髪になすって髪をととのえる。	D : タイミングを図り、手に触れるようにする。 E : 目の引くタオルを用意する(色)。 F : トイレ近くの所定の場所にタオルを置いておく。 I : 手拭きタオルを使用する。 L : 洗い終わったらすぐに「手をふきますよ～」と声かけながら職員が拭く。 M : タオルで手をふくように声かけ。	3
0210932	タオルで手を拭く	A : タオルがわからない。 B : ペーパータオルでは認識できない。 C : 指先だけしか拭かない、手を拭こうとしない、自分の衣類で拭いてしまう。 E : こすらずにさすだけ。 G : 拭かずに、他者に渡そうとしたり"カ"に入れてしまう。 H : (当施設はペーパータオル) 拭かない。 K : 手と一緒に顔まで拭いてしまう。 L : できない；もってすすぐにおいてしまう、頭にのせる。 M : タオルに気づけばできる。 M : 生活習慣で首にかけてあるタオルを探したり髪を整えるためになすったりする。	A : タオルを手渡す。 B : 布タオルで対応。 E : その本人の今までのやり方を尊重する。 F : 間を置いて再度の手拭、「お腹が大きいですね」と言って出していただく。 G : 何度も手渡し、手を拭くように促す。 H : ペーパータオルを渡す。 K : ハンドタオルの方がつかんだり良い場合がある。 L : 洗い終わったらすぐに「手をふきますよ～」と声かけながら職員が拭く。 M : 生活習慣を知る。タオルを首にかけてもらう。髪を整えた後に再度手洗いを進める。	4
0210939	その他	A : 洗うと手が濡れているので、拭くことは問題なく可能。 C : ペーパータオル多量にとる(ポケットなどに仕舞い込む)。 I : 使用済みのタオルの置き場所が分からない。 K : そのタオルで 洗面台や鏡まで拭こうとする。	I : 大きく説明を書いた置き場所を設置。 K : 形骸化した役割行為で意味づけして心理支援する場合もある。	

10) 開錠する

0211001	開錠する	A : 開け方がわからない。 G : 基本的にはドアは開けたままであり、カーテンの開閉を職員が行う。 K : 施錠はアウトマッチな一連行為でも開錠は難しい。 M : 出来ない。無理やり開けようとする。	A : 外から開錠できる鍵を導入。 G : 基本的にはドアは開けたままであり、カーテンの開閉を職員が行う。 J : 施錠は促さない。 K : 鍵を取り外す。 M : 解錠する。	6
0211099	その他	K : カーテン、プリーツカーテンが開けられない。	K : 開けっ放しにしておく。	

11) 外へ出る

0211101	外へ出る	C : トイレの個室から出た後、方角がわからない。 E : 個室の為、自然に出る。 G : 元の場所の位置を理解していない。 H : 拒否。 K : トイレ内で回ってしまっ一人で出てきにくいことがある。	E : 介助なし。 G : 手引き誘導行う。 H : 肩をなでたり、腕を組み安心してもらう。 K : はい！とかが行こう！と言うとずっと動けたりする。	4
0211199	その他			

II - 2小便

生理機能 尿意がある、それがわかる

概念 小便排泄はトイレで行うものである

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか	全介助のきっかけとなる生活障害
-------------------------	--------------------------------	-----------------

1) トイレに行く

0220101	移動	A : 杖を忘れる 杖を持つ側を迷う。 D : 場所が分からない、歩けないのに歩こうとする。 E : 大便も排泄(小便)もできない。 G : 目的地の位置を理解していない。 H : トイレの場所が覚えられず探し続ける/拒否。 I : トイレの場所が分からない。 J : トイレ誘導の拒否(大声・暴力・無動)。 L : 歩行はできるが場所の認識はできない: 廊下、居室で排便をしようとするそのときに、トイレに誘導しようとする大声だしたり、手を振り払うなどの拒否あり。	A : ①指摘、②職員の過介助をやめてもらう。 D : サインなど頼める存在になる(選ばれる) サインを読み、意思を確認。 G : 手引き誘導。 H : 「便所」に貼り紙をする。一定のトイレへ誘導する/肩をなでたり、腕を組んで安心してもらう。 I : トイレに目印。同船をシンプルにする。 J : 声掛けのタイミングをはかる L : 股間を触ったり、怒りっぽくなり落ち着かないような時は「オシッコ?」と確認する。そうだと返事があった場合は誘導したい場所に手招き、またはやさしく手を添えて誘導。	4
0220102	トイレのドアを開ける	A : 開け方がわからない。 E : トイレの前まで行くと「ここじゃない」「此处には用はない」と開けようとしな J : ドアの様式に対応できない。(引き戸を強引にひっぱるなど)。 L : カーテンがないかのように突き進む。	A : ドアを開けておく(事前に)。 D : →多くの場合開けてまっしてしまっている。 G : 基本的にはドアは開けたままであり、カーテンの開閉を職員が行う。 J : 「→」などのマークをドアに表示。 L : 職員が行う。	4
0220103	トイレに入る	C : 便器を見ても、トイレだと認識できない。 D : すでに失禁の状態。 E : 「自分で出来るからついてくるな。」「どうして一緒に入ってくるんだ。」 G : 入っても「キヤー」と言い、すぐに出来てしまふ。 H : 拒否。	D : そのことに触れずに本人の語りの中で、本人の意思を向けるようにする。 G : 「キヤー」と言い真似をして笑われ、興味を引き付ける。 H : 肩をなでたり、腕を組み安心してもらう。	4
0220104	便器に至る	A : 便器の前の方で座ろうとする。 C : 便器を見ても、トイレだと認識できない。 D : 鏡に映る姿をみて、誰かいる。 E : 中の様々なスイッチや水槽のふたなどを気にしてさわり始めてしまい、座ろうとしない。 H : 拒否。 I : 便器が認識できず座らない。 L : できない: 洗面台にむかったり、出て行こうとする。	A : 目印(手すり)を提示。 D : 介護者の立ち位置と意識をトイレに向ける言葉かけ。 G : 手引き誘導。 H : 肩をなでたり、腕を組み安心してもらう。 I : 一連の動作を反復練習。ポータブルトイレ設置。 L : 『オシッコですね』と繰り返しながらやさしく手を添えて誘導。	6
0220105	施錠する	A : 施錠はできる(無意識に)。 C : ドアを開けたまま排泄する。 I : 扉を開めない。 J : 鍵をかけてでれなくなる、トイレ内での非常時の対応が困難。	A : 開錠できない。 I : 気付かれないように扉を閉める。 J : 鍵を見えにくい位置に設置。	4
0220199	その他	I : 尿意がない。 J : トイレ訴え頻回。	G : 基本的にはドアは開けたままであり、カーテンの開閉を職員が行う。 I : リハビリパンツ着用。排尿間隔をチェックし誘導。 J : 排泄チェック。	

2) 便器に向かう(男性のみ)

0220201	便器の正面に立つ	A : 離れて立つ(便器前にこぼす)。 D : 立った位置から届かない。 E : 本人が座って使用する事が多い。 I : 便器までの距離が遠い。 K : 便器の淵に反射的に足をかけて登ろうとする。 L : できない: 横でも関係なく排尿しようとする。 M : 便座をあげずにそのまま排尿する。	A : 誘導。「言語指示」あるいは、「体を前に軽く押す」。 D : 本人にあった言葉(座ったほうが腰が痛くないですよ・汚れますよ(x))。 I : 男性トイレの受け口を広く改造する。足の目印。 K : 座ります!と端的に指示する。 L : 本人の腰部をゆっくりと動かしたさせる。 M : トイレ使用時は便座をあげる介助をする。	6
0220299	その他	C : 便器から離れた場所から放尿し、周囲を汚してしまう。 D : タンクを抱えながら、正面にすわる。 I : 便器を洗面台やゴミ箱と間違えて放尿する。	I : 定時の排泄誘導。ポータブルトイレの練習。 K : 男性でも座って用を足すように誘導することが多い。	

3) 便器の扱い (女性のみ)

0220301	蓋を開ける	A : ふたがあると、ふたを上げることがわからない。 B : 蓋として認識できない。 C : 蓋と便座を一緒に上げてしまう。 E : 便器は解るが、開ける前に蓋を閉めたまま座ってしまう。 G : 開けるが、すぐ閉じてしまう。 K : ふたを開けたり閉めたりする。	A : ふたを上げたままにしておく。 D : →普段からあいていることが多い。 G : 声かけ模倣にて、理解を促す。 J : ふたはない。 K : 便座のふたは外しておく。	3
0220302	便座に座る	A : 「座る」言語指示がわからない。 B : 指示がはいらない、振り向けない。 D : 中腰ですわる、ひっかかる。 E : そこに座るといふ行為なし。立ったまま。 G : 自分から座ろうとしない。 H : できない。 I : 便が出るまで座ってられない。 K : 座ることに抵抗がある。	A : 軽く腰骨を押す…誘導。 D : 着替えの準備。 G : 腰を下ろすように、指示動作をする。 H : 動作を模倣してもらう。 I : 少し時間が経ってから再誘導。 K : 肩とおへその部分で誘導すると座り易い。	7
0220303	便座に対して体の各部を適切な位置につける	A : 「座る」言語指示がわからない。 C : 座る位置が浅く、尿が外に出してしまう。 G : 上手く座れない。 K : 体を回転できない、空間認知・空間定位の困難。	A : 軽く腰骨を押す…誘導。 G : 深く座るように誘導。又はジェスチャーにて指示する。 K : ぐるっと回ってと声をかけると動きやすい。	4
0220399	その他			

4) 衣類を下ろす・衣類の一部を開く

男性

0220401	ファスナーを下げる	A : ファスナーの使い方がわからない。 B : 用を足さず上げてしまう。 D : フックが小さすぎつかめない、下げられない、上がられない。 E : 自分で外さず、スポンをはいたまま座ろうとする。 K : 排泄行為障害が生じると多くはジャージー・リハパツとなりがち。 L : できない：スポンと下着を少しさげのゴム部分から取り出す。	A : ゴムタイプのスポンに変更。 B : 一連の動作を繰り返す。 D : 戸惑っている様子を見極めながら、了解を得、介助。 K : ファスナー・ボタンの操作は難しい、衣類を工夫する。 L : 職員が行う。	6
0220402	下着の裏からペニスを取り出す	A : 前に出すことは可能。 C : ペニスを十分に出来ないまま排泄する。 D : 冬は、パンツ+リハパツ+パジャマ+スポン=出てこない。 E : スポンを全て下げる。 K : 前だけ適切に引き下ろせない。 L : できない：スポンと下着を少しさげのゴム部分から取り出す。 M : とりだせない (小さい)。	D : 異性は触るなど嫌があるので、着替えの準備、その後の様子を伺う。 L : 職員がスポンを下げるだけ行える。	6
0220403	ペニスに手を当て便器に向ける	A : 尿が便器まで届かない。便器の方向へペニスが向いていない。 C : ペニスを十分に出来ないまま排泄する。 D : 陰毛が絡んで出てこないまま発射してしまう。 E : 便器の中に入らぬ。 I : ペニスを下に向けない。 J : きちんと扱えず、汚してしまう。 K : 手すりを持っていて突き出しても前を汚す。 L : できない。 M : ペニスをつかめないで便器に向けても尿が届かない。	A : 悩み中です… D : 着替えの準備、その後の様子をうかがう。 E : トイレトペーパーを乗せる。 I : 両大腿部ではさみ下を向けるよう介助。 J : 便器に目印、足の位置にしろし。 K : 座って排尿するように習慣の変更を支援する。 L : 本人の腰部をゆくゆくと動かしたさせる。 M : 座って排尿するよう声掛け。	6
0220409	その他	C : (介助にて) 衣類を下げようとする怒る。		1

女性

0220411	スカート・スポン等を下げる	A : スカートのすその存在を忘れる。 B : 下げるが直ぐに上げてしまう。 C : 衣類を着たまま便座に座ってしまう。 D : サイズがきつくて下がらない。 E : 大便も排泄 (小便) も違いなし。 G : 介助にて下衣を下すが、すぐに上げようとする。 H : 拒否。 I : 時間を要する。十分に下げられない。 J : 介護拒否。 K : スカートのたくしあげるので、介護しやすい。	A : スカートの場合、介助。 B : 動作の導入介助にて対応。 D : 戸惑っている様子を見極めながら、了解を得、介助。 G : 両手に何を把持してもらう(手摺り・清拭等)。 H : 時間をかけて介助する・声掛けして動作促す。 I : ゴムひものスポンを着用する。 J : 職員を男性スタッフから女性スタッフへ変更。	6
0220412	下着を下げる	A : どうしてよかわからない。 C : 衣類を着たまま便座に座ってしまう。 D : 立位がとれない、フラフラ。 G : 介助にて下衣を下すが、すぐに上げようとする。 H : 拒否。 I : 下着やリハビリパンツを十分に下げられない。 J : 介護拒否。 K : リハビリパンツの形状メーカーによって違う。	A : 介助。 D : 異性を嫌がる、手の届く位置で見守り。 G : 両手に何を把持してもらう(手摺り・清拭等)。 H : 時間をかけて介助する・声掛けして動作促す。 I : ゴムが緩い下着やリハビリパンツを着用する。 J : 職員を男性スタッフから女性スタッフへ変更。	6
0220413	いずれも適切な位置で止める	A : 適切な概念がわからないので、足首まで下げきる。あるいは、ほとんど下げない。 C : 衣類を全部脱いでしまう (時には全裸になってしまう)。 H : 拒否。 I : パットを使用していることを認識できない。	A : 下げきっても良い。下げられない方は、介助。 H : 時間をかけて介助する・声掛けして動作促す。 I : リハビリパンツ着用。排泄間隔をチェックし誘導。 K : 回転してから膝まで下げるまでの誘導が多い。	6
0220414	尿道口を便器に対して適切な方向に向ける	C : 便器に対して横から座りこぼれてしまう。		6
0220419	その他	C : (介助にて) 衣類を下げようとする怒る。 D : 太ってしまっているのに、きつい服を着て、下ろせない、下げられない、動けない。		1

5) 排尿行為

0220501	いきむ	A : 座ってしばらく、わからない。 B : 腹圧が掛けられない。 D : ダラダラと出続ける、いきまなくても、タラタラと。尿意は？ G : いきまない。 K : 排尿せずに立ちあがってしまう。 M : 尿意を感じなくなるのか座っても排泄しない。	A : 腹部を軽く押す（誘発）。或いは、「うーん」といきんで見せる。 D : 座ってもらい、笑わずなどに腹圧を誘導するとどつとでやすい。 G : 腹圧をかけるように介助する。 K : 前傾させて、手圧をかけてみる。	4
0220502	排尿中は動かない	A : 立ち上がろうとする D : 本人の中ではOKだが、ペニスをだしたまま納めるのを忘れ、ダラダラのまま移動してしまう。 G : 動いてしまう。 I : 立とうとすると尿が出る。 K : 女性の方が便器周りの汚れは少ない。 L : 出し切る前に動くことあり。	A : 言語、あるいは、軽く肩を押さえる。 G : 手に何かを持たせ、そちらに興味を向かせる。 I : 中腰までの立ち座りを反復し、尿意を確認する。 L : 「オシッコですよ」声かけ続ける。終わるまで軽く背中に触れておく。	4
0220599	その他			

6) 後始末（女性のみ）

0220601	ペーパー巻き取り	A : わからない。 B : 長さが分からない。 C : 必要以上に多量にペーパーを巻き取る。ほんのわずかしかペーパーを使わず手が汚れてしまう。 D : ロールの半分くらい使ってしまう。あればあるだけ。 E : 大便も排泄（小便）も違いなし。 G : 短すぎってしまう。 H : できない。 J : 自ら行わない。 K : ちぎってしまって遊んだり、いつまでも引き出す。	A : 介助。 D : その都度使用する分を準備、巡回時にチェック。 G : 説明の声かけにて修正行う。 H : ペーパーの位置を伝える。 J : 声掛けや、誘導。 K : ちり紙を適量渡す方がいい場合もある。	4
0220602	尿道口を拭く	A : わからない。 C : ほとんど拭かない、何度も拭き続ける。 K : お尻の方を拭いてしまう。	A : 介助。	3
0220603	拭いた紙を捨てる	A : 拭いた紙をゴミ箱に捨てようとする。 B : 便器の横に捨てる。 C : 拭いた後のペーパーをポケットなどに仕舞い込む。 D : 枠外にはずれる。落とすと詰まるという落としがらない。 G : 吹き終わったものを持ったままにいる。 J : 便器内に捨てられない。 K : ポケットにしまおうとしたり、床に投げたりする。	A : 捨てる場所を指さしながら、提示。 D : 籠の準備。 G : 捨てるように声かけ。捨てられない場合は介助を行う。 J : 便器内に捨ててよいことを伝える。 K : 目の前にゴミ箱を置く。	3
0220699	その他	D : 拭いたものを持ち帰る・ペーパーを持ち帰る。 I : 未使用のロールごと便器に捨ててしまう。	D : 気づかぬように処分・了解を得ながら処分。 I : 予備のロールは少なめに設置。	

7) 水洗で流す

0220701	ボタンやハンドルの操作	A : 「流す」を忘れている。 C : 流さない（ハンドルを探さずともない）。 D : いつまでも触ってはならない。 G : 行おうとしない。 I : 排泄物を流さない。 K : 座ったままの操作は困難。 L : できない；流さずに出て行く。声かけ手も理解できない。	A : 指示。 D : 便の確認をしようとするので、スタッフがする場合が多い。 G : 指示動作にて、実施可能。行えない場合は介助を行う。 I : ボタン近くに大きな説明文をつける。 J : 自動。 L : 職員が行う。	4
0220799	その他	A : 排泄は落ちていくものと思っている。	A : 視覚確認して、流してもらおう。	

8) 大便と同様に衣類を身につける

0220801	両脚を中に入れる	A : できない 左右がわからない。 D : 足首を延ばさずにそのままあげるので、抜けなくなる。 E : スポンを完全に脱ぐことなし。 K : 全部脱ぎきってしまうとする方。穿けなくなってもがいてしまう。 L : 股間ぐらいの高さまでひきあげ、腰まではかずに歩き出す。	A : 全介助、指示しすぎない。 D : 言葉の掛け方、足先、足甲に触れながら介助。 K : 膝まで下ろして、引き上げる形での行為遂行を支援。 L : 職員が行う。	4
0220802	ボタン、ファスナーなどをかける	A : 時間がかかる、結果できない。 B : ファスナーを上げ忘れる。 C : ボタンやファスナーをかけずに立ち上がる。 D : フックなどが嫌で、したがない。 H : 拒否。 I : ファスナーをあけられない。 K : 指先の高地性、目と手の対応が早期に衰えるタイプがある。 L : できない。	A : きっかけを言葉、指で指示。 D : ベルトなどで代用。 H : 時間をかけて介助する・声掛けして動作促す。 I : ゴムひものスポンを着用。 K : 衣類を工夫する。失行タイプとして、行為誘導を具体的にする。 L : 職員が行う、ゴムが入っているスポンに替える。	5
0220899	その他	I : パットをあてられない。肌着がでている。 J : パットを抜く、使用したペーパーが残っている。	I : 介助する。 J : 定時に誘導しチェック。	

9) 手洗い

洗手の行為

0220901	水道栓を回す	A : 回すことを忘れる（手を洗つてと、職員が言うときない）。 C : レバー式水栓を回そうとする。 G : 上下レバーが理解できない。 I : 水道栓の形状で戸惑う。 L : できない；指示するが通りすぎる、別の話しをするなど。	A : 職員の指示を中止、離れて見る。 D : レバー式。 G : 口頭指示にて実施可能。行えない場合は介助を行う。 I : 介助する。 J : 自動。 L : 職員が行う。	6
0220902	手を水流の下に位置させる	A : 水が出れば、可能。 B : 水が流れていても手を出さない。 C : 水が出ていても、そこに手を出さない。 D : 便器の水流の音に反応して、便器内で洗う。 G : 手を出さない。 H : 手を出さない。 J : 自ら行わない。 L : できない。	A : 水を出す。 D : もう一度洗いなおす、一緒に洗う、否定しない、監督しない。 G : 模倣・声かけを行い、動作促す。 H : 「手を洗う」と伝える・模倣してもらう。 J : 声掛け、誘導。 L : 片手をゆっくりと誘導しぬるま湯に触れさせる。	5
0220909	その他	C : 水道の流水量を調節できず、ジャージャー流す、便器の水で手を洗う。		1

石鹸をつける

0220911	石鹸つかむ	A : 石ケンって、どれですか？。 C : 片手に持ったまま、握りしめてしまう。 D : つかめない。 J : 異食行為。	A : これが石ケンです。と実際に見せる。 D : シャボンネットに入れる、見つけやすくする。 J : 固形石鹸は置かない。	2
0220912	手全体に行き渡らせるべく広げる	A : どうしたらいいですか？ C : 手もみをせずにすぐに水で流してしまおう。	A : 初めにやって見せる。一緒にする。 D : スタッフと一緒にいきわたらせつつ、そのまま洗う。	3
0220913	液状石鹸を手につける	A : どうしたらいいですか？ C : ポンプの下に手を置かずに出してしまおう。 D : 準備はしてあるが、つかう人はあまり見ない。 G : 液体石鹸であり、ポンプを押しきれない。 I : 液状石鹸を使わない。認識できない。 J : 自発的に行わない。 L : つけずに水のみで洗う、これと差し出すとポンプ式が理解できず傾ける。 L : できない。	A : 初めにやって見せる。一緒にする。 D : 多くの場合はスタッフ用になっている。 G : 介助を行う。 I : 固形石鹸を使用する。 J : 声掛け、誘導。 L : ジェスチャーをすることで模倣可能。 L : 職員が行う。	4
0220914	手全体に広げる	A : どうしたらいいですか？ C : 手もみをせずにすぐに水で流してしまおう。 G : 手に広げる前に、顔を洗ってしまおう。 H : 広げない。 L : できない。	A : 初めにやって見せる。一緒にする。 G : 顔に興味や移らないように、職員が間に入り介助する。 H : 模倣してもらう。 L : 職員が行う。	4
0220919	その他			

すすぎ

0220921	蛇口の下に手を置く	A : 水が出れば、可能。 B : 水が流れていても手を出さない。 C : 水が出ていても、そこに手を出さない。 D : 場所に手を伸ばせない。 G : 手を出さない。 H : 手を出さない。 L : できない。	A : 水を出す。 D : そばで支える。 G : 模倣・声かけを行い、動作促す。 H : 「手を洗う」と伝える・模倣してもらう。 L : 片手をゆっくりと誘導しぬるま湯に触れさせる。	4
0220922	全体を洗い流す	A : どうしたらいいですか？ C : 石鹸の泡がまだとれないうちに洗うのを止めてしまおう。 D : 流水の感覚や音が怖い、手を入れたがらない。 G : 石鹸が残っていることあり。	A : 隣でやって見せる。 D : 洗面器に溜めて、その中で洗う。 G : 声かけし、再度洗い流すように促す。	4
0220929	その他			

手を拭く

0220931	タオル等に向かう	D : 位置が分からない、向かわず自分の服やスタッフのエプロンで。 I : ペーパータオルが認識できない。 L : できない：ふかずに離れてしまおう。	D : タイミングを図り、手に触れるようにする。 I : 手拭きタオルを使用する。 L : 洗い終わったらすぐに「手をふきますよ～」と声かけながら職員が吹く。	3
0220932	タオルで手を拭く	A : タオルがわからない。 B : ペーパータオルでは認識できない。 C : 指先だけしか拭かない、手を拭こうとしない、自分の衣類で拭いてしまおう。 G : 拭かずに、他者に渡そうとしたりバケリに入れてしまおう。 H : 拭かない。 L : できない：もってすぐにおいてしまおう、頭へのせる。	A : タオルを手渡し。 G : 何度も手渡し、手を拭くように促す。 H : ペーパータオルを渡す。 L : 洗い終わったらすぐに「手をふきますよ～」と声かけながら職員が吹く。	4
0220939	その他	A : 洗うと手が濡れているので、拭くことは問題なく可能。 C : ペーパータオル多量にとる（ポケットなどに仕舞い込む）。 I : 使用済みのタオルの置き場所が分からない。	I : 大きく説明を書いた置き場所を設置。	1

10) 開錠する

0221001	開錠する	A : 開け方がわからない。 G : 基本的にはドアは開けたままであり、カーテンの開閉を職員が行う。	A : 外から開錠できる鍵を導入。 G : 基本的にはドアは開けたままであり、カーテンの開閉を職員が行う。	4
0221099	その他			

11) 外へ出る

0221101	外へ出る	C : トイレの個室から出た後、方角がわからない。 G : 元の場所の位置を理解していない。	G : 手引き誘導行う。	4
0221199	その他			

Ⅲ 手を洗う

生理機能 生理機能はない

概念 衛生概念は保持されているか？

各行為についてケアが難しくかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア（介助）をしたら上手くいったのか	全介助のきっかけとなる生活障害
--------------------------	--------------------------------	-----------------

1) 洗面の場に行く、適切な位置に立つ：身体とシンクの位置関係

030101	洗面の場に行く	A : 洗面所の場所がわからない。 C : 手を洗うという認識が低く、手が汚れていても気にしない。 D : トイレの水で洗う・保人もOKと思ってる。手を洗うが分からない。 E : 食事の前でも自ら行わず、誘うと行こうとする。 F : 洗面所の場所がわからない・自発的行動はない。 G : 目的地の位置を理解していない。 K : 鏡が気に入り、仮性行為で洗面台を拭く。 L : できない：指示が入らない。 M : 場所がわからずうろうろする。	A : 言語指示。あるいは、一緒に行く。 D : トイレの場合は、消毒などで。分からないは、誘導。 E : 声かけや促しをする。 F : 洗面所にお連れして洗面の必要性を想起していただく。 G : 手引き誘導。 K : 顔を洗います、と端的に指示する。 L : 「こっち、こっち」と手招きする、手を添えて手洗しますよと声かけながら誘導。 M : 声掛けではいけないので手引きで誘導。	6
030102	適切な位置に立つ	A : 離れて立つ。 D : 手が届かない位置に立つ。 E : 蛇口に向かって正面に立つことは出来る。 L : できない：シンクから離れた所にとったり横を向いたり。	A : 言語、体に手を添えて適切な位置まで近づく。 D : 淵を手すりのように掴んでいただき腰を寄せる。ポジションをとる。 E : 介助なし L : 腰部をかくる押さえゆっくりと近づける。	3
030199	その他			

2) 洗手の行為

030201	水道栓を回す	A : 回すことを忘れる (手を洗ってと、職員が言うてできない)。 C : 手でうまく水をすくえない、顔に手が行かない。 D : レバーになれていないので、出しっぱなし・温度設定ができない。 G : 上下レバーが理解できない。 L : できない; 指示が入らず全く違う行動。	A : 職員の指示を中止、離れて見る。 D : その都度言葉を掛け、確認を繰り返す。 G : 口頭指示にて実施可能。行えない場合は介助行う。 J : 自動。 L : 職員が行う。	6
030202	手を水流の下に位置させる	A : 水が出れば、可能。 C : 水が出ていても手を出さない。 D : 手が届かない、淵をつかんで手が出せない。 G : 手を出さない。 H : 手を出さない。 L : できない。	A : 水を出す。 D : 支えながら、手を伸ばす誘導。 G : 模倣・声かけを行い、動作促す。 H : 「手を洗う」と伝える・模倣してもらう。 L : 片手をゆっくと誘導しぬるま湯に触れさせる。	5
030299	その他			1

3) 石鹸をつける

030301	石鹸つかむ	A : 石ケンって、どれですか? C : 片手に持ったまま、握りしめてしまう。 D : つかめない。 J : 異食。	A : これが石ケンです。と実際に見せる。 D : シャボンネットに入れる、見つけやすくする。 J : 固形石鹸は置かない。	3
030302	手全体に行き渡らせるべく広げる	A : どうしたらいいですか? C : 手もみをせずにすぐに水で流してしまふ。	A : 初めにやって見せる。一緒にする。 D : スタッフと一緒にいきわたらせつつ、そのまま洗う。	4
030303	液状石鹸を手につける	A : どうしたらいいですか? C : ポンプの下に手を置かずに出してしまう。 D : 準備はあるが、つかう人はあまり見ない。 G : 液状石鹸であり、ポンプを押しきれない。 J : 自ら行わない。 L : つげずに水のみで洗う、これと差し出すとポンプ式が理解できず傾ける。 L : できない。 M : 液状石鹸を口に入れる。石鹸液を顔に塗ってしまう。	A : 初めにやって見せる。一緒にする。 D : 多くの場合はスタッフ用になっている。 G : 介助を行う。 J : 声掛け誘導。 L : ジェスチャーをすることで模倣可能。 L : 職員が行う。 M : 石鹸類を目の届くところに置かない。液体石鹸は石鹸と認識しにくい。固形石鹸を使用する。	3
030304	手全体に広げる	A : どうしたらいいですか? C : 手もみをせずにすぐに水で流してしまふ。 G : 手に広げる前に、顔を洗ってしまふ。 H : 広げない。 L : できない; 液状石鹸をてに乗せてもそのまま洗わずに離れようとする。	A : 初めにやって見せる。一緒にする。 G : 顔に興味が多らないように、職員が間に入り介助する。 H : 模倣してもらう。 L : 職員が行う。	3
030399	その他	J : 消毒液を顔にぬろうとする。	J : つける前に手をこすり合わせるように誘導。	

4) すすぎ

030401	蛇口の下に手を置く	A : 水が出れば、可能。 C : 水が出ていても、そこに手を出さない。 G : 手を出さない。 H : 手を出さない。 L : できない。	A : 水を出す。 G : 模倣・声かけを行い、動作促す。 H : 「手を洗う」と伝える・模倣してもらう。 L : 片手をゆっくと誘導しぬるま湯に触れさせる。	7
030402	全体を洗い流す	A : どうしたらいいですか? C : 石鹸の泡がまだとれないうちに洗うのを止めてしまふ。 D : 流水の感覚や音が怖い、手を入れたがらない。 G : 石鹸が残っていることあり。 J : 十分に行えず(指先だけ)または必要以上に洗い続ける。	A : 隣でやって見せる。 D : 洗面器に溜めて、その中で洗う。 G : 声かけし、再度洗い流すように促す。 J : 声掛け。	4
030499	その他	A : 手洗いのあと、洗面ボールを洗う。	A : 困ってます…。	

5) 手を拭く

030501	タオル等に向かう	D : 位置が分からない・そのまま・濡れてしまったことを怒る。 L : できない; ふかずに離れてしまふ。	D : タイミングを図り、手に触れるようにする。 L : 洗い終わったらすぐに「手をふきますよ～」と声かけながら職員が吹く。	3
030502	タオルで手を拭く	A : タオルがわからない。 C : 指先だけが拭かない、手を拭こうとしない、自分の衣類で拭いてしまふ G : 拭かずに、他者に渡そうとしたりカギに入れてしまふ H : 拭かない L : できない; もってもすぐにおいてしまふ、頭のにせる。	A : タオルを手渡す。 G : 何度も手渡し、手を拭くように促す。 H : A°-P°-タオルを渡す。 L : 洗い終わったらすぐに「手をふきますよ～」と声かけながら職員が吹く。	3
030599	その他	C : ペーパータオル多量にとる (ポケットなどに仕舞い込む)。		

IV 顔を洗う

生理機能 生理機能はない

概念 衛生概念は保持されているか?

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか	全介助のきっかけとなる生活障害
-------------------------	--------------------------------	-----------------

1) 洗面場に行く、適切な位置に立つ：身体とシンクの位置関係

040101	洗面場に行く	A : 洗面所の場所がわからない。 D : 誘導すると怒りだし、水をジャバジャバ掛ける・よかついていけない。 F : 洗面所への移動を嫌がる。 G : 目的地の位置を理解していない。 K : 朝は顔を洗う、という習慣性は失われやすい。 L : できない; 指示が入らない。 M : 自らはいけない。	A : 言語指示。あるいは、一緒に行く。 D : 顔を洗う目的を伝える・蒸したタオルなどの代用。 F : 言葉の理解ができない可能性もあるため散策がてら洗面所に行く。 G : 手引き誘導。 J : おしぼり提供。 L : 「こっち、こっち」と手招きするか、手を添えて手洗しますよと声かけながら誘導。 M : 声掛け誘導。	5
040102	適切な位置に立つ	A : 離れて立つ。 D : 立とうとしない・ふらつく。 L : できない; シンクから離れた所にたったり横を向いたり。 M : 鏡を見て驚くことあり (誰かいる)。	A : 言語、体に手を添えて適切な位置まで近づく。 J : おしぼり提供。 L : 腰部をかく押さえゆっくと近づける。 M : 本人だと話す。	5
040199	その他		J : おしぼり提供。	1

2) 洗顔の行為

040201	水道栓を回す	A : 回すことを忘れる（手を洗ってと、職員が言うときできない）。 C : レバー式水栓を回そうとする。 D : レバーになれていないので、出しっぱなし・温度設定ができない。 G : 上下レバーが理解できない。 I : 水道栓の形状で戸惑う。 L : できない。 M : 水道栓の形が変わるとできない。	A : 職員の指示を中止、離れて見る。 D : その都度言葉を掛け、確認を繰り返す。 G : 口頭指示にて実施可能。行えない場合は介助行う。 I : 介助する。 J : おしぼり提供。 L : 蒸しタオルで拭くこと介助。	6
040202	手を水流の下に位置させる	A : 水が出れば、可能。 C : 水が出ていても、そこに手を出さない。 D : 手が届かない、淵をつかんで手が出せない。 E : 水の位置につける事は出来るが曲面をつける事は出来ない。 L : できない：指示が入らず全く違う行動。	A : 水を出す。 D : 支えながら、手を伸ばす誘導。 E : ワーカーが行為を示す。 J : おしぼり提供。 L : 蒸しタオルで拭くことを全介助。	5
040299	その他	L : できない：指示が入らず全く違う行動。		1

3) 手に水を受ける：掌に水を押し

040301	両手をくっつけて曲面を作る	A : どうしたらいいですか？ D : 淵を片手でつかみ、片手で。 E : 手のひらに水をためることは出来ない。 G : 清拭のみ実施。 K : きちんと閉じた両手にならない。 L : できない：指示が入らず全く違う行動。 M : 両手をくっつけることはできるが隙間ができる。	A : 初めにやって見せる。一緒にする。 E : 実際に難しいため、蒸しタオルを用意。 J : おしぼり提供。 L : 蒸しタオルで拭くこと介助。	7
040302	局面に水を受ける	A : どうしたらいいですか？ D : 溜めるというよりも濡らすと言った感じ。 E : ぬらした手で顔につけている。 G : 清拭のみ実施。 K : 充分でなくぬれた手で顔をパッシングするような状況になる。 L : できない：指示が入らず全く違う行動。 M : 行動はできるが両手をくっつけて水をためられない。	A : 初めにやって見せる。一緒にする。 J : おしぼり提供。 L : 蒸しタオルで拭くことを全介助。 M : 洗面器等に水をためて対応、コップを使用。	7
040399	その他	A : 洗面を嫌がる。『両手をくっつけて曲面を作る』行為のように事前準備が必要なので、難しい行為。 G : 清拭のみ実施。 I : 液状石鹸を使わない。認識できない。 L : できない：指示が入らず全く違う行動。	A : 顔拭きタオル活用。 I : 固形石鹸を使用する。 J : おしぼり提供。 L : 蒸しタオルで拭くことを全介助。	

4) 洗顔

040401	石鹸が入ることも：掌に石鹸を行き渡らせて顔面全体に広げる	A : できない。 E : 水洗いのため石けん使用せず。 G : 清拭のみ実施。 K : 高齢の男性は石鹸で洗う習慣がない人もいる。 L : できない：指示が入らず全く違う行動。 M : 入浴時は石鹸で顔を洗うが洗顔は水のみの人が多い。	A : 全介助。 J : おしぼり提供。 L : 洗顔クリームと歯磨きチューブを間違えるので洗顔クリームは手渡す介助。 L : 蒸しタオルで拭くことを全介助。	5
040402	掌の紙面を顔面に持って行く	A : できない。 D : 届くところまで、目を閉じるのでふらつきやすい。 G : 清拭のみ実施。 L : できない：指示が入らず全く違う行動。	A : 全介助。 D : 転倒に注意しつつ、手を出せる距離の傍にいる。 J : おしぼり提供。 L : 蒸しタオルで拭くことを全介助。	6
040403	掌で顔面を洗う	A : できない。 D : 自分では洗おうとしない・目・鼻・口の周囲のみ。 G : 清拭のみ実施。 K : 顔の一部をパッシングするよう形で終わってしまう。 L : できない：指示が入らず全く違う行動。	A : 全介助。 D : 蒸しタオルなど代用。 J : おしぼり提供。 L : 蒸しタオルで拭くことを全介助。 M : できないときは蒸しタオルで清拭。	6
040499	その他	A : 実際に介助者の行為を見れないので、なかなか難しい行為だと感じます。 G : 清拭のみ実施。 L : できない：指示が入らず全く違う行動。	J : おしぼり提供。 L : 蒸しタオルで拭くことを全介助。	2

5) すすぎ

040501	蛇口の下に手を置く	A : 水が出れば、可能。 C : 水が出ていても、そこに手を出さない。 G : 清拭のみ実施。 L : できない：指示が入らず全く違う行動。	A : 水を出す。 J : おしぼり提供。 L : 蒸しタオルで拭くことを全介助。	5
040502	全体を洗い流す	A : できない。 D : 流水の感覚や音が怖い、手を入れたがらない。 G : 清拭のみ実施。 I : ペーパータオルが認識できない。 L : できない：指示が入らず全く違う行動。	A : 全介助。 D : 洗面器に溜めて、その中で洗う。 I : 手拭きタオルを使用する。 J : おしぼり提供。 L : 蒸しタオルで拭くことを全介助。	5
040599	その他	G : 清拭のみ実施 L : できない：指示が入らず全く違う行動。	J : おしぼり提供。 L : 蒸しタオルで拭くことを全介助。	

6) 手を拭く

040601	タオル等に向かう	D : 位置が分からない・そのまま濡れてしまったことを怒る。 L : 半分以下しかできない：目に入った他利用者のタオル、台拭きのタオルで顔を拭く。	D : タイミングを回り、手に触れるようにする。 J : おしぼり提供。 L : タオルを準備して洗面台におく。	4
040602	タオルで顔を拭く	A : タオルを渡せば可能。 C : 目の周囲など顔の一部しか拭かない。 G : 拭かずに、他者に渡そうとしたりカギに入れてしまう。	A : タオルを手渡す。 G : 何度も手渡し、手を拭くように促す。 J : おしぼり提供。	5
040603	タオルで手を拭く	A : タオルを渡せば可能 C : まだ濡れていても止めてしまう G : 拭かずに、他者に渡そうとしたりカギに入れてしまう。	A : タオルを手渡す。 G : 何度も手渡し、手を拭くように促す。 J : おしぼり提供。	3
040699	その他			1

V 歯磨き

生理機能 生理機能はない

概念 衛生概念は保持されているか？

	各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか	全介助のきっかけとなる生活障害
--	-------------------------	--------------------------------	-----------------

1) 洗面の場に行く、適切な位置に立つ：歯ブラシが取り出せる、口がゆすげる

050101	洗面の場に行く	A：洗面所の場所がわからない。 B：その場に行くことができない。 D：歯磨きという言葉が伝わらない。 E：洗面の為その場に行くと言う意思が薄い。 G：目的地の位置を理解していない。 J：指示が入らず、誘導困難。拒否。 L：できない：指示が入らない。	A：言語指示。あるいは、一緒に行く。 B：声掛けで促す。 D：本人に合わせた表現（ハコウジ等）。 E：声かけにより洗面を意識してもらう。 G：手引き誘導。 J：移動せず、自席にて行う。 L：「こっち、こっち」と手招きするか、手を添えて手洗しますよと声かけながら誘導。	3
050102	適切な位置に立つ	A：離れて立つ。 L：できない：シンクから離れた所にとったり横を向いたり。	A：言語、体に手を添えて適切な位置まで近づく。 L：腰部をかるく押さえゆっくりと近づける。	3
050199	その他			1

2) 歯ブラシの用意

050201	取り出す：ブラシとペースト	A：ペーストがわからない。 B：自分で見つけることができない。 G：異食・収集の危険性あるため職員管理。 H：複数の歯ブラシから自分のものを取り出せない。 J：管理困難（紛失）。 K：自分の歯ブラシと人の歯ブラシが区別できない。 L：できない：指示が入らない。 M：他の人のと間違える。	A：介助。 B：スタッフと共に取り出す。 D：介護者がつい介助してしまう。 H：本人用のコップに入れてセットしておく。 J：スタッフで準備。 L：職員が行う。 M：間違えないように見守り。	8
050299	その他	G：異食・収集の危険性あるため職員管理。	E：洗面台にコップ歯ブラシを準備する。 M：口腔ケアをする準備をあらかじめしておく。	1

3) ペーストを歯ブラシに着ける

050301	チューブのふたを外す	A：ふたがわからない。 E：スクルータイプ①、ワンタッチは難しい。 G：異食・収集の危険性あるため職員管理。 H：外さず出そうとする。 J：飲み込む、拒否。 K：小さいふたは回せるが、爪ではじくタイプ・大きいふたは取れない。 L：できない：指示が入らない。 M：キャップ式が多いので蓋が外せない事がある。	A：言語で指示。 D：介護者がつい介助してしまう。 E：言葉では指示難しいため、少し緩くして渡す。 H：「外していない」ことを伝える。 J：ペーストは使用せず。 K：古いタイプのものは操作できることがある。 L：職員が行う。 M：蓋をはずす介助をする。	6
050302	チューブをしぼってペーストを出す	A：ペーストの適量がわからない。 E：歯磨き粉と解らずに頭に塗ってしまう。 G：異食・収集の危険性あるため職員管理。 J：飲み込む、拒否。 K：出すペーストの量をコントロールできない。 L：できない：指示が入らない。 M：量が適量だせない。 M：ペーストを食べる。ペーストをおしろいと間違えて顔に塗る。整髪料のように髪に塗る。	A：その都度、指示するが、難しい…。 D：介護者がつい介助してしまう。 E：その場は違うと言わずに、置く場所に配慮する。 J：ペーストは使用せず。 L：職員が行う。 M：出しすぎないように見守りと声掛け。 M：使用する際は介助者が対応。歯磨き以外は介護者が管理する。歯磨き以外は介護者が管理する。	8
050303	ペーストをブラシに付ける	A：どうしたらいいですか？（混乱が始まる）。 E：両手同時に操作むずかしい。 G：異食・収集の危険性あるため職員管理。 J：飲み込む、拒否。 K：上手く合わせられずに、落としたり汚したりする。 L：できない：指示が入らない。 M：つけることはできる。	A：初めにやって見せる。一緒にする。 D：介護者がつい介助してしまう。 E：歯ブラシをもってもらうチューブはワーカーが出す。 J：ペーストは使用せず。 L：職員が行う。 M：うまくつけられないときはペーストを付けて渡す。	7
050304	一旦歯ブラシを置く	A：わからない。 E：チューブを汚さないように置くことが出来ない。 G：異食・収集の危険性あるため職員管理。 J：飲み込む、拒否。 L：できない：指示が入らない。 M：一旦歯ブラシを置く、チューブにふたをする、チューブを元の位置に戻すの行為をすると歯磨き行為を忘れる。	A：初めにやって見せる。一緒にする。 D：介護者がつい介助してしまう。 E：歯ブラシをたてるためにコップを示す。 J：ペーストは使用せず。 L：職員が行う。 M：細かい動作を連続して行うのは難しい。	6
050305	チューブにふたをする	A：ふたがわからない。回して締めることがわからない。 E：開けることより閉めることが難しい（開けっ放し）。 G：異食・収集の危険性あるため職員管理。 J：飲み込む、拒否。 L：できない：指示が入らない。	A：一緒にする。 D：介護者がつい介助してしまう。 E：少し閉めて渡す。 J：ペーストは使用せず。 L：職員が行う。	6
050306	チューブを元の位置に戻す	A：どこにあったか、覚えていない（場所を忘れる）。 E：位置が解らない。 G：異食・収集の危険性あるため職員管理。 J：飲み込む、拒否。 L：できない：指示が入らない。	D：介護者がつい介助してしまう。 E：コップの所なたてるように示す。 J：ペーストは使用せず。 L：職員が行う。	6
050399	その他	G：異食・収集の危険性あるため職員管理。 J：飲み込む、拒否。 K：行為遂行の一連の流れが分解し、考えると混乱する。 L：できない：指示が入らない。	K：声かけのタイミングや方法を工夫していく・個別性。 L：職員が行う。	

4) 歯を磨く

050401	歯ブラシを持つ	A : 持つことはできる。目的はわからない。 D : 伝わっていないれば持たない。 J : 歯ブラシの認識なく、物品をうまく使えない。 L : 半分以上しかできない：持つことは可能だがブラシを反対にもったり柄をもつ。	A : 一緒に動作を行う。 D : 分かりやすい言葉で語り直す。 E : 自ら持たないことが多く、持っていたく。 L : 適切な向きにしてみせる介入。	7
050402	口を開ける	A : 開けない（目的が理解できない）。 D : 無理にしようとする口を閉む。 E : 好んで、口を開けてくれないことがある。 J : 拒否。	A : 一緒に開ける。口角を刺激する。 E : ほほから口元へとソフトにマッサージする。 J : 声掛け 拒否が強い場合はタイミングを見て介入。	6
050403	歯をブラッシングする	A : わからない。 B : 持つがブラッシングできない。 C : 歯ブラシを口に入れたまま動かさない（ブラッシングしない）。 E : ブラッシングをすぐに終わりにしてしまう。 G : 大きな声で歌を歌い、集中が途切れてしまう。 H : 洗面台をブラッシングしようとする。 J : 拒否。 K : 一部分だけしか磨けない。 L : 半分以上できる：側面のみ動かすことができる。	A : 介助。 B : 目の前で同じ動作をすることで対応。 D : 必要性を尋ねながら介助・拒否@タイミングを計り直す。 E : 前・奥など部分的に伝える。 G : その都度声かけ、ブラッシング促す。 H : 歯ブラシを口に入れる・模倣してもらう。 J : 拒否がつよい場合はタイミングを見て介入・スタッフを変えるなど。 L : 残りは介助。	7
050404	歯ブラシを置く	A : わからない。 D : 関心を示さない・磨こうとしない。 E : 位置が解らない。 K : 磨く前からコップにつけてしまったり 行為の順番がちがく目付いたものに行為が中断され、影響されてしまう。 L : できない：指示が入らない。	A : 一緒に動作を行う。 D : 一緒に磨く。 E : コップの所にたてるように示す L : 「もうそろそろいいですよ」と声かけながら手を差し出す。	4
050499	その他			1

5) ゆずぎの水を用意する

050501	コップを手を持つ	A : 嫌がる。 E : 経験あり。 G : コップ持たない。 K : 持ちやすいコップと 持ちにくいコップがある。 L : 手渡せばできる。	A : マグカップ使用し、もつ部分を明確に。 D : 介護者がつい介助してしまう。 E : 水を入れて渡している。 G : 手渡す。 J : スタッフで準備。 L : 手にもたせる。	4
050502	水道栓を回して水を出す	A : 回すことを忘れる（手を洗ってと、職員が言うときできない）。 E : 水を出せるが止められない。 G : 上下レバーが理解できない。 L : できない：指示が入らない。	A : 職員の指示を中止 離れて見る。 D : 介護者がつい介助してしまう。 E : 止まる方向を教えてあげている。 G : 口頭指示にて実施可能。行えない場合は介助行う。 J : スタッフで準備。 L : 職員が行う。	6
050503	コップで水を受ける	A : 受けることはできるが、ちょうど良い水位がわからない。 E : 経験あり。 G : 量の調節ができない。 L : 水があふれてそのまま。 M : 水がでていればコップを使用し水をくむことはできる。	A : 介助。 D : 介護者がつい介助してしまう。 E : コップに水を入れて渡している。 G : レバーの操作を職員側で調節する。 J : スタッフで準備。 L : 水をいれて手渡す。	4
050599	その他	E : コップを使用せず手ですくう人が多い。		

6) 口をゆすぐ

050601	コップの水を吸い込む	A : 飲み込んでしまう。 D : 吸い込まない、流れ落ちる。 E : 少量のみ吸い込む。 F : 吸い込むことが出来ずこぼれが多い。 H : コップと口の形が一致せず、口横から水があふれる。一回に口に注ぐ水量が調節できずあふれる。 K : 頸を充分伸展できない、コップが傾けられない。	A : 仕方ない…。 D : 何かすると思われるので手が出せない・タオル・着替えの準備。 E : 回数を多くする。 F : 顔を前屈させコップを唇に当て口に流し込む・むせの評価が必要。 H : 介助者がコップに手を添え、水の量を調節する。 K : ノズコップ等を活用する。	5
050602	口の中をゆすぐ	A : くちくちゅが理解できない。飲み込んでしまう。 B : 水を飲み込んでしまう。 D : 口に入れるが、ゆすげない。 E : すずがず飲んでしまう。 F : ゆすぐことができない。 G : 水を口に含んだまま、動かない。 K : うがいをしたり 口をすすいだりは 難しくなりがち。	A : やって見せる。でも、飲み込む。 B : 声や動作で対応。 E : 洗面器を用意してそこに出してもらおう。 F : 「ブクブクしよう」と、ゆっくり・はっきり伝える。 G : 「ブクブクしますよ」と声かける。 K : 薄めた薬用殺菌剤（液体）をつけて磨く。	5
050603	水を吐く	B : 水を飲み込んでしまう。 C : ブラッシング後のすすぎの水のみ飲んでしまう。 D : 水を飲んでしまう。 E : 水をはかずに飲んでしまう。 F : 水を飲み込んでしまう。 G : 水を口に含んだまま、吐き出さない。 H : 飲む。 J : 吐かずに飲み込む。 M : 水を飲んでしまう場合がある。	B : 声や動作で対応。 D : 止められない…あああつという間に…ペースをつけたい。 E : 目の見えるように示す。 F : 「吐き出しましょう」と、ゆっくり・はっきり伝える。 G : 少し多めに口に含ませ、吐き出させる。 H : 吐くタイミングに合わせて「へ」と口頭で伝える。 J : 声掛け。 M : 介護者が一連の動作を一緒に行う。	3
050699	その他			

7) 歯ブラシを片付ける

050701	歯ブラシをすすぐ	A : 水にぬらすのみ。 C : 歯磨き後の歯ブラシをすすがない。 D : 口をゆすぐコップの水で。 E : 経験あり。 F : すすがない。 G : 清潔保持目的にて職員管理。 H : 洗面台をブラッシングしようとする。 L : できない；指示が入らない。	A : その後の清潔は介助。 D : あとで、応対する。 E : ワーカー介助。 F : 後始末のお手伝いをする。 H : 「終了」したことを伝える。 J : ほとんどスタッフで管理、実施。 L : 職員が行う。	5
050702	ブラシの水を切る	C : 水で流した後、そのまましまう。 E : 経験あり。 F : 水を切らない。 G : 清潔保持目的にて職員管理。 L : できない；指示が入らない。	A : その後の清潔は介助。 E : ワーカー介助。 F : 後始末のお手伝いをする。 J : ほとんどスタッフで管理、実施。 L : 職員が行う。	5
050703	歯ブラシを元の位置に戻す	A : わからない。 C : 洗面台の上に、そのまま置いてしまう。 D : 離さずに、持ち帰る。 E : 位置が解らない。 F : 元の場所以外の場所に放置する・バック、懐にしまい込む。 G : 清潔保持目的にて職員管理。 L : できない；指示が入らない。 M : できない。持ち歩いたりする。	A : 動作を細かく区切って、指示。 D : あとで、応対する。 E : コップの所にたてるよう示す。 F : 後始末のお手伝いをする・時間が立つから回収する。 J : ほとんどスタッフで管理、実施。 L : 職員が行う。 M : 声掛けしてあずかる。	5
050799	その他	C : 歯ブラシやコップをタンスの中に入れ込んでしまう。 G : 清潔保持目的にて職員管理。	J : ほとんどスタッフで管理、実施。	

VI 食べる

生理機能 食欲、咀嚼・嚥下機能

概念 空腹になったら食物を口に入れるものである

	各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか	全介助のきっかけとなる生活障害
--	-------------------------	--------------------------------	-----------------

1) 食事の場に行く：歩行・移動

060101	歩行・移動する	A : 移動するだけ(歩いているだけ)。 D : 食事が目の前にないと歩き続ける。 E : 食事時間が解らない。 G : 目的地の位置を理解していない。 H : 誘うが移動しない。 J : 食事中、席を立ち徘徊。食事に集中できない。 K : 他社の食べ物に突進してしまう。 L : できない；指示が入らない。 M : 移動はできるが環境が変わると自分で席に就けない。	D : 早めの食事、量の調整と配せんの工夫。 E : 「お腹がすいたね」等食事の話題を示し誘う。 G : 手引き誘導。 H : 嗜好品を持って行き、「食堂で食べましょう」と誘う。 J : 声掛け。空間を変えて再度声掛け。 L : 「こっち、こっち」と手招きする、手を添えて手洗しますよと声かけながら誘導。 M : 食堂の環境を整え変えない。	3
060199	その他	M : 食事の拒否や誘導しても食堂の認識ができない。	M : 時間を置いて誘導したり、椅子に腰かけてもらう。	

2) 適切な位置に座る：体と椅子・机の位置関係

060201	適切な位置に座る	A : 机から離れたまま。 D : 椅子とテーブルの距離が遠い。 E : 机と座る距離が離れ過ぎてしまう。 F : 座り損ねる。 G : 椅子を見ずに座る為、斜めに座っていたりしている。 J : 浅く腰掛ける。 K : 食事中、立ち上がって食べてしまう。 L : 半分以下しかできない；座面の端、アームに座ろうとする。 M : 自分の席や椅子が認識できずそのまま歩いてしまう。	A : 一旦立つてもらい、椅子を机に寄せる(介助)。 D : 本人の了解を得ながら、ゆっくり押す。 E : 適切な位置に動かす「遠慮しないでもっと前に来て」。 F : 座る位置を手で確認しながら座る誘導を重ねる。 G : 声かけ・ジェスチャーにて修正を促す。 J : 声掛け、誘導。 L : 腰を下ろす際に本人の股部の位置にあわせて椅子を設置する。 M : 声掛けして椅子に腰かける。	3
060299	その他	F : ほかの利用者を押しつけて座ろうとする。 M : 座るといふ指示が伝わらないことがある。	F : 「こちらが空いてますよ」と声をかけ誘導する。 M : なんでも声掛けして腰かけてもらう。	

3) 食物の認識

060301	食物だとわかる	A : 食物と理解するまでに時間がかかる。 B : ゼリーを固形物と認識できない。 C : 箸等で食器の中のもの、ずっとかき混ぜて食べようとしなない。 D : お絞りを加える、食べ物以外も口に入れる。 E : 食べ物と解るが、自分の物と他人の物の区別が付かない。 H : 食べ始めない・口をひらかない。様々な食品を混ぜる。 J : 認識が弱く、食べない。 M : わかるが、おかずや何が並んでいるかはわからない。	A : 右手に箸、左に茶碗。食べる準備を始める。 B : 固形物を潰し対応。 D : 危険なものは置かない、壊れぬものを置く、満足感を支える。 E : 間違えるクライアントの間にワーカーが介入する。 H : 食べ始めは介助する・「○○です」と口頭で伝える・「おいしいですよ」「私が作ったので味見して下さい」と伝える・ご家族に嗜好品を持参していただく。食器を1つにする。 J : 食器の色を変えてご飯がわかるように配慮・一口介助してみる。 M : 今日のメニューをつたえる。	8
060302	その性状(温度、新鮮さ、堅さなど)がわかる	A : わからない D : みそ汁に手を入れる、残飯に手を入れる、口に運ぶ。 E : 固さ◎温度◎新鮮さ×。 H : 一度、口に入れるが出してしまう(口腔内での認識が低下している様子)。 K : 味が分らなくなっていく。 L : 熱さ、硬さはわかる。 M : 半分以下しかできない；熱さ以外は理解困難。 M : わからない。	D : ぬるめの配せん。 E : 一つ一つ説明する。 H : 「これは○○ですよ」と伝える・軟らかい物にする・味を濃いめに付ける。	5
060399	その他	D : 投げる・となり人もの触る。 G : 食物と理解しているが、遊んでしまう。 I : 食べへの関心が薄れる。 K : 異食(花・アイスノンの中身・おむつのポリマー等)。	G : 小分けにて提供する。 I : 好きだったものを提供する。	1

4) 平皿上の食物の操作

060401	箸、スプーン類で切る、裂く	A : 箸なら箸。スプーンならスプーン。複数を使いこなせない。 D : 手や歯を使ってさく、手をつけない。 E : 用途によって使い分けが難しい。 F : 切る・裂くことができず、そのまま口に入れる。 H : 箸とスプーンを一緒に把持する。箸を1本で使用する。 J : うまく裂けない。 K : 箸の恥がおぼつかなくなる 閉じ開きが出来なくなる。 L : 箸 : 出来る (持たせることは必要)。 M : 器の柄と食べ物の違いが認識できない。	A : 箸を中心とした。(他のスプーン、フォークはださない)。 D : あらかじめほど良い大きさに。 E : 「こっちの方が使いやすいよ」と示す。 F : 「小さくしましょうか」と尋ねてから本人の前で切る・裂くを手伝う。 H : 食器を1つにする。2本手渡す。 J : 食形態を考慮・滑り止めマット。 L : もたせる介助を行なう。 M : あらかじめ1口大に切っておく。	6
060402	箸、スプーン類でつかむ、乗せる	B : 器の柄と食べ物の違いが認識できない。 C : 箸やスプーンをわたしても、手づかみで食べる。 D : つかみにくい時は手を使う。 E : 用途によって使い分けが難しい。 F : つまめない・乗せられない。 H : スプーンに乗せる量が多い。スプーンの裏に乗せる。こぼれても乗せ続ける。 I : 皿の模様を食器だと思い乗せ続ける。白い皿に、白い食器だと、食品の認識がしにくく、乗せない。 J : こぼれてしまう。 M : 手づかみで食べる。箸でとって手に載せて食べるなど生活習慣が影響することがある。	B : 無地柄の器に変え対応。 D : そのまま、後の手拭き等に対処。 F : 滑りにくい箸を用意・スプーンに職員が食材をのせ摂食を促す。 H : 小さいスプーンに変更する。適切なスプーンの向きにして渡す。平皿から少し深めの皿に変更する。模様のない皿に変更する。色付き食器に変更する。 J : 自動具を使用 (フードガードがついた皿など) 姿勢の確認。 M : 手づかみで食べられるように食形態を変える	4
060499	その他	J : 箸に固執してスプーンなどを使おうとしない。 M : 箸やスプーンフォークの使い分けはできない。	J : 箸の提供を行わない。	

5) 口まで運ぶ

060501	箸、スプーン類で口まで運ぶ	A : 口の直前で、こぼす。食べこぼす量が多い。 B : 口では無いところに運ぶ。 D : 手首・肘の機能が衰え、落とす。 E : スプーンに乗せて運ぶが途中でこぼしてしまう。 F : 口まで食べ物運べない。 H : 口元を超えて運ぶ。 J : 食べこぼし・動作がとまる (口の前)。	A : 座位姿勢の改善、頭部の位置の改善。 B : 何度かの動作導入にて対応。 D : スプーンの工夫・テーブル、椅子・皿・姿勢・照明・色などの工夫。 E : 器や食事の形状を工夫する。 F : 口まで届くよう介添えをする。 H : 手を添えて介助。 J : 姿勢、テーブルの高さ、スプーンの形状を調整、動きが止まった場合は口にスプーンがつくように誘導。	7
060502	口を開けて食物を受ける	A : 口の直前で、こぼす。 D : 片麻痺、麻痺側にたまる。 E : 口に入れるが下を向いてしまうため、落ちてしまう。 F : 口を開けない。 G : 開口が小さい。おちよぼ口になってしまう。 I : 口を開けない。 J : 動作が止まる。	A : 座位姿勢の改善、頭部の位置の改善。 D : 声かけ+気づいてもらう+手伝う。 E : 前に視線が向くように自然な声をかけて見る。 F : 好き嫌い・空腹を確認。本人の意思で開けないのが評価する。 G : スプーンの先端からの摂取ではおちよぼ口になってしまう為、スプーンの色々な部分から摂取して頂く。 I : 好きな食べ物。形状を変え崩して口へ運ぶ。 J : 口唇に触刺激を与え開口を促す。	8
060599	その他			

6) ご飯と汁物を口に入れる

060601	茶碗を持つ	A : 持たない。 D : 食欲がないと持たない。朝はOK・昼夜は×。 E : 茶碗を持つとしない。 F : 持たない。 J : 途中で疲れたり、集中がなくなり食べなくなってしまう。 L : 出来る : 持たせることは必要。 M : できない。	E : 介助は特になく、持たずに食べ支障なし。 F : 持たないのか・持たせたかを評価。 J : 小さな器で何回かに分けて提供。 L : もたせる介助を行なう。 M : もちやすい大きさに変える。	2
060602	茶碗を口元に近づける	A : 口を寄せる。 E : 適切な位置より若干遠めの為こぼすことが多い。 F : 近づけられない。 J : やろうとするがつかない。	E : 姿勢の保持が出来るよう促す。 F : 介添えをする。 J : 姿勢、頸部・体幹の柔軟性を促す。	3
060603	箸・スプーン類を使って茶碗からご飯や汁を口に入れる	A : すべて口に届くまで、こぼす。 D : 箸が逆。 E : こぼしてしまう。 F : 食べこぼしが多い。 J : 碗から直接食す。	A : スプーンの形状改善 (福祉用具の工夫)。 E : つかみややすい形状にする (小おにぎり等)。 F : おにぎりにする。静かな環境を用意する。 J : 一度にたくさん量が入らないように小分け。	5
060699	その他	C : お茶、汁物を主食、副食の器に入れてしまう。オヤツの際にもケーキや饅頭の皿にお茶などをかけこぼしてしまう。 D : 言葉を掛けずすると手づかみ・言葉を掛けると茶碗+箸。	E : ハンドフード	

7) 咀嚼・嚥下する

060701	咀嚼	A : ずつかみ続ける。 B : 噛むという認識が薄れてくる。 D : 噛まずに飲み込む・数十分と噛んでいる。 E : 口の片方にたまってしまう。 F : 咀嚼をしない。 H : 食べ物が入っているが止まる。周囲が気になり集中できない。 I : 咀嚼時間が長い。 J : ためこみ・はきだし。 M : できるが早食いなどで十分でないときもある。	A : 嚥下するように、喉や口角をタッピング。 B : 少量を口に入れ頬の刺激で噛み始める。 D : 言葉かけ、時間をかける、ももとの習慣? E : マッサージ。 F : 「かみかみしよう」と言葉で誘導、口腔内の痛みを評価。 H : 「おいしいですね」「噛んで」と伝える。口唇にスプーンを付ける・汁物を含んでいただく。集中できる環境 (1人テーブル) にする。 I : 少量ずつ取り込めるよう介助する。 J : 食形態を考慮、顔面・首周りのマッサージ。 M : よく噛むよう声かけする。柔らかく調理。	5
060702	嚥下	A : むせても、次々と食べ物口に入れる。 B : 飲み込むという認識がない。 D : 咀嚼の回数が少なく飲み込み・誤嚥しやすい・飲み込まない。 E : 咀嚼出来る以上に入れてしまい飲み込みにつまる。 F : 嚥下しない・口の中に食べ物をため込む。 H : 口腔内に残っているが詰め込みむせる。 J : ためこみ・はきだし。	A : 蒸せないように姿勢を矯正。口に入れ続けられないように制止。 B : 少量を口に入れることで飲み込める。 D : 言葉かけ、見守りや調理にお工夫・時間をかける、焦らさない。 E : 適量ずつ渡す。 F : 咽頭痛の確認・空腹感の評価・摂食嚥下機能評価・環境調整。 H : ゆっくり食べるよう伝える・小さいスプーンに変更。 J : 食形態を考慮、顔面・首周りのマッサージ、飲み込みの確認。	7
060703	吸う	A : できない。あるいは、吸ってためる。 B : コップやお椀から吸うことができない。 E : 吸わずに吹いてしまう。 F : 吸えない。 H : 麺類を吸えない。	A : ごつんを実際に見せる。 B : ストローで対応する。 E : 一口味見をして体験してもらう。 F : 鼻閉の評価・スプーンで丁寧に介助。 H : 1口大に切って提供。	4
060799	その他	C : 口中の食べ物をしばらく噛み続け、味がなくなると吐き出してしまふ。 D : 時間が経つと、集中できない、立ち上がり席から離れる。 M : 適量をとって口に入れられない。飲み込む前に口に食べ物を詰め込んでしまふ。早食いではほとんどかまないで食べる。若いころの生活習慣も影響。	B : 味覚や唾液腺の刺激を与えたり、口腔体操を実施する。 M : 一口大に食べ物を切っておく。こぼれながらゆっくり食べてもらう。柔らかく調理する。ゆっくりたべよう声掛け。	

8) 総合評価

食品を万遍なく摂取するか？

060801	食品を万遍なく摂取する	<p>A：できない。 D：好きなものしか食べようとしない。 E：ご飯等一品ずつたべてしまう。 F：一点食いをすゝ空の食器にいつまでも食事道具を当てている。 G：単品ずつの摂取になってしまう。 H：1皿を食べ続ける。 I：食べ残しが多い。 J：小鉢のみ食べない、主食を食べない、副食を食べない。 M：できない。おかずだけ、ご飯だけという食べ方。 M：一点食べしかできない。ご飯だけのこしている。目の前の好きなものから食べる。おかずを別の皿に移動させて混ぜてしまう（最終的には食べる）。ご飯におかずもデザートも載せて混ぜる。</p>	<p>A：できなくても、かまわない。 D：食べたいものを食べることで満足。 E：他のお皿を一つずつずらして助める。 F：小分けにして食器の位置を移動させる。 G：おかずをのせる。 H：1口大に切って提供。 I：食事中に声をかけ、残っていることを伝える。 J：どんぶりのようにしてまとめて提供、食形態を変更してみる。 M：ご飯の上に少量ずつおかずをのせる。 M：お茶碗に少しずつおかずを載せる。ふりかけをかけて味を付けて提供。食べる皿を順に目の前に置く。見守りする。お茶碗に少しずつおかずを載せる。横で介護者が細かく介助する。</p>	4
060809	その他	<p>J：パンなどポケットにしまう。 M：食事と理解できないのか食事介助を拒否する。</p>	<p>J：その都度確認、パンからごはんへ変更。 M：目の前の皿を交換しながら食べてもらう。 M：食べ物を見せながらゆっくり介助する。味がわかれば拒否しない（好きな味のものから口に運ぶ）。</p>	

左右の手の協調技術はどうか？

060811	茶碗や皿からこぼさない	<p>A：こぼす。 C：おかずならおかずだけ、一つのものばかり食べ続ける。箸等で細かくした食べ物をテーブルの上に並べていく。 D：失認、こぼす。 E：こぼしてしまう。 G：かき込む様に摂取する為、こぼしが多く衣類が汚れる。 H：こぼれる。 J：食べこぼしが多い。 M：こぼす。こぼしたものを拾って食べる。</p>	<p>A：手前に食器を置く。 D：こぼれることを前提にした配慮、食器、素材、食事の量の工夫。 E：こぼしたことを非難しない（そっとかたづける）。 G：ゆっくりと摂取するように声かけ、食食用のエプロンではなく、ナイロン生地の割烹着を着用していただく。 H：皿の変更。 J：自助餐の検討、食形態の検討。 L：お盆の位置を本人に近づける。こぼす量が多いときは介助。 M：汚れてもすぐにふきとるなどの対応をする。 D：効率性を求めない。 E：やろうとする行為に対して「手伝いますか」と聞く。</p>	4
060812	協調で効率的動作	<p>A：コップの水をこぼさないように、隣の皿を動かす。両方に注意を払えない。 E：難しい。 J：時間がかかる、疲れやすく持続性がない。</p>		3
060813	手前への引き寄せ動作	<p>A：コップの水をこぼさないように、隣の皿を動かす。両方に注意を払えない。 D：他者のものまで寄せてしまう。 E：指で、引っかけて引き寄せるためにこぼす。 M：できない。</p>	<p>E：近くに於いて見守り。 M：食べるお皿を手前に引く介助をする。</p>	2
060819	その他			

マナー

060821	犬食い	<p>A：やめない。 B：手を使わず口を器に持って行く。 E：止まらず、口の中に次から次へと入れる。 F：犬食いを修正できない。 M：皿をなめる。</p>	<p>A：姿勢、椅子の改善。必要なときは、席を変える。 B：動作の仕切り直しをする。 E：肩を抱き寄せながら優しく話しかける。 M：食べ物がなくなった皿はさびげなく下げていく。</p>	2
060822	手づかみなど	<p>A：やめない。 C：箸やスプーンをわたしても、手づかみで食べる。 E：手の上に食べ物をその都度のせる（おてしよう）。 F：手づかみで食べる。 H：手づかみで食べる。 J：手づかみ。 K：スプーン操作が読めなくなると手づかみが出る。 M：箸が認識できないばあいは手づかみ。</p>	<p>A：手づかみでもかまわない形状にする（例：おにぎり）。 D：箸やスプーンの代用へ視野に入れる。手に触れるなどさびげなく誘う。 E：周りから非難されないように気を配る。 F：箸やスプーンを持たせ、静かな環境の用意。 H：スプーン等を手渡す。 J：崩れにくい形態に変更。大きさなど考慮。 K：おにぎりやつまめる形で食べやすくする。 M：箸を持つように声掛け、食事形態の工夫をする。</p>	2
060829	その他	<p>C：「自分のものと区別がつかず」、他者の食事を食べてしまう。「自分のものではない」、とわかっていても他者の食事を食べてしまう。 G：小分け用の食器が空になると、払い除けてしまう。 I：衣類こぼれていることに気付かない。 J：早食い。 K：おかずの皿を両手で持ち帰ろうとしてしまう。 M：自分のおかずを先に食べ、隣の人のおかずをとって食べる。（同じ量にも関わらず）おかずが多い少ないと言いつつ、目を盗んで他人の皿と交換する。食事が終わっても食べさせてもらっていないと、食堂をうろうろしている。空腹を訴え台所から乾物などを持ち出そうとする。散らし寿司やうどんなど大きな器から直接食べることができず遊んでしまう。フロンや果物などを皿から取って食べられない。</p>	<p>G：空になった食器はすぐに片付け、次の分の食品を渡す。 I：スプーンの形状を変える。すぐに拭きとる。 J：小皿で何回かに分けて提供。 M：一番最後に食事を置く。隣の席は介護者がつき、一緒に食事しながら見守りをする。他の利用者トラブルにならないよう、お茶に誘い少量のお茶菓子を提供する。台所のそばにきたら見守りを行い何か行動が見られたら、声掛けしお茶に誘うなど気分を変える。使い慣れた茶碗に少量ずつよそいながら食べてもらう。いつも使い慣れたお茶碗にデザートを取り分けて食べてもらう。スプーンが使えない場合はお箸で食べてもらう</p>	1

食物の温度などの性状に応じた対応が可能か？ 熱いものは吹くなど

060831	食物の温度などの性状に応じた対応が可能か	<p>A：わからない。E：暖かいもの・熱いものに苦手意識が強い。 F：熱いものを冷やす動作はせず、飲むことをやめる。 H：パンやスポンジのような性状をつめこむ。 J：熱いものを認識できず、静止しても食べようとする。</p>	<p>A：熱いものには職員が介助する。 E：安全への配慮とその他の温度感覚に合わせた物を提供。 F：飲みやすい温度に調整する。傍に寄り添って「さます」行為をする。 H：適量に切って手渡す。 J：介助者で温度確認。 M：熱さが伝わる陶器などを使用する。</p>	4
060839	その他			

Ⅶ 飲む

生理機能	喉の渇き、嚥下機能
------	-----------

概念	喉が渇けば水分を口に入れるものである
----	--------------------

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア（介助）をしたら上手くいったのか	全介助のきっかけとなる生活障害
-------------------------	--------------------------------	-----------------

1) 液体を飲む場に行く：歩行・移動

070101	液体を飲む場に行く	D：行きたいけれど行けない。 E：喉の渇きを感じられないため行かない。 F：喉の渇きを自覚して移動することはない。 J：自ら水分摂取を意識してできない。 L：できない。 M：どこに行けばいいのか分からずうろたえている。	E：水分補給に配慮（脱水にならないように）。 F：皮膚（含む口唇）の乾燥状態で水分の不足の有無を評価。 J：定時のお茶の提供。摂取量のチェック。 L：提供する。 M：声掛け誘導。	3
070199	その他	D：指示の冷蔵庫には行けるが、冷蔵庫の使い方や開け方が分からない。 M：のどの渇きを感じられない。	D：指示の工夫。 M：時間をみながら水分を進める。	

2) 適切な位置に座る：体と椅子・机の位置関係

070201	適切な位置に座る	A：机と離れて座る。 D：他者と自分の関係を図ることができず、適当に座る。 G：椅子と自分の関係を図る為、斜めに座っていたりしている。 J：浅く腰掛ける。 L：半分以下しかできない；座面の端、アームに座ろうとする。 M：自分の席や椅子が認識できずそのまま歩いてしまう。	A：立ってもらい、椅子を近づける。 G：声かけ・ジェスチャーにて修正を促す。 J：座り直しの促し。 L：腰を下ろす際に本人の股部の位置にあわせて椅子を設置する。	2
070299	その他			

3) 飲み物の認識

070301	飲み物だとわかる	A：飲み物と理解できるまでに時間を要す。 D：消毒液をのむ。 E：液体が全て飲み物だと思ってしまう。 H：認識できない。 J：自ら飲まない。	A：コップを手に持たせ、声をかけつつ覚醒を促す。 D：安全な位置に置く。 E：簡単に手の届くところに置かない配慮。 H：「お茶ですよ」と伝える・1口介助で飲んで頂く。 J：声掛け、誘導、好みの飲み物の提供、時間を置いて再度提供。 M：なじみにコップなどにはいってはいれば理解できる。	7
070302	その性状（温度、粘度、新鮮さなど）がわかる	E：温度が解らず、とろみの緩さが解らず一気に飲み込む。 H：ムセながら飲み続ける。 J：予想していないものが入ってきたことによるむせこみ。 L：半分以下しかできない；熱さ以外は理解困難。 M：わかる、甘い、好きな味と感じる？	A：熱いものには介助。 E：吸い飲みに入れて対応。 H：トロミを付ける・ゼリータイプの水分提供。 J：熱さの加減、コップ、ストローなどの容器や吹口の検討。 M：一口口にしてもらい美味しいと感じてもらおう。	2
070399	その他	G：配茶時、お茶を床に撒いてしまう。 J：飲まない。	G：量の調節を行ったり、見守り行き散きそうな行動がみられた時は、声かけする。 J：コップ、ストロー、水筒などの容器や吹口の検討。	

4) 口に入れる

070401	容器を持つ	A：コップのどこを持つかわからない。 D：ペットボトルの口首をもち、少ない量は飲み干せない。 E：持てるが握力が無いため、滑る。 I：水平に持てずにこぼしやすい。 J：落とす、こぼす。 K：水平に持てずにこぼしやすい。 L：できる；もたせれば。	A：コップを手に持たせる。とってが付いたコップを導入。 E：手を添えて一部介助を行う。 I：手を添えて口元に運べるように誘導。 J：容器の形状の工夫、両手つき、重さ、ストロー？など。 L：もたせる介助。	3
070402	それを口元に運ぶ	D：深いコップの底のものは飲めない。 E：深いコップだと飲みにくい。 J：口元の手前で傾けこぼす。	E：可動域に合わせた食器類、一部手をかす。 J：上肢と体幹・頸部の協調性を持ちやすくするための姿勢保持。	4
070499	その他	M：机に戻す際に距離感がなくコップを上手く置けない。	M：飲み物が入っている間はそばで見守りをする。	1

5) 飲み込む

070501	口を開けて受ける・吸う	A：口内にためない。だらだらと口からこぼす。 E：飲み込む量の調節が出来ない。 G：口の開きが小さい。 J：開けない・拒否。	A：困ります…。 E：とろみの濃さ・器・様々な物を組み合わせて調節。 G：声かけ。 J：少しずつ提供。場所を変えてみる。	5
070502	飲み込む	A：口内にためたまま、飲み込まない。 C：口の中にため込んでしまい、急に吹き出したりむせたりする。 E：一度飲み込んだ物をはき出す。 G：口腔内にため込んでしまう。 H：水・お茶はため込む。 J：こぼす・拒否。 K：なかなか飲む込めず、舌押し出すようになる。	A：喉や口角を刺激。 E：無理せず待つ。 G：嚥下するように声かけする。 H：甘みを付ける・トロミを付ける・ゼリー状の水分を提供する。 J：少しずつ提供。スプーンを使う。	2
070599	その他	C：コップの中身を床に撒いてしまう。 J：水分を飲みたがらない。摂取量が少ない（脱水）。 K：吸って反応が生じてうまく取り込めない。	J：1日の摂取量のチェック。好きな飲み物の提供など。	1

Ⅷ 着衣と履物はき

生理機能 温度感覚

概念 社会的、生理的に衣類をまとう必要がある

	各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか	全介助のきっかけとなる生活障害
--	-------------------------	--------------------------------	-----------------

1) 着衣が置かれた場に行く：歩行・移動

080101	着衣が置かれた場に行く	D：歩けないのに、歩こうとする。 E：衣類が濡れているか乾いているか区別が難しい。 F：自分の衣類とほかの人の衣類の区別がつかない。 G：自分のものがある場所を判断せず、動いてしまう。 J：他者のたんずを開ける。 K：上着を先に着ようとする。 L：できない。 M：自分ではいけない。行っても目的を忘れる。	D：否定せずに、数M間隔に椅子をおき、座りながら実感を誘う介助。 E：一緒に声をかけながら行う。 F：本人の単筒に目印をつけると共に言葉でも伝え続ける。 G：本人の着衣が置いてある場所へ誘導する。 J：名前や、写真など自分のところだと分かるようにする。 L：提供する。 M：自室のタンスなどにはいける。	5
080199	その他	F：ほかの人の単筒をいじる。	D：歩けなくなったあとという実感を誘う。 F：ほかの行動へと導く。	

2) 身につける衣類の選択

080201	時間、場所などにふさわしい衣類を選ぶ	A：季節に合わせた服ではない。同じ服ばかり着る。 C：「寒い」と無用にも何枚も重ね着する。同じ服ばかり着ようとする。周囲の状況を気にせず、衣類を脱ぐ(時には全裸に)、ほとんど全裸になってしまう。 D：どれを取っていいかわからない。 E：季節感や行事の選択が難しい。 F：寝間着への着替えができない。同じ衣類を着用している。 G：基本的には職員にて準備する。 H：日中、寝巻を着ている。 J：何枚も重ね着をする。同じ服ばかり着る。 K：気に入ったものばかりを着る。修正が難しい。 L：半分以上可能：迷っているうちに自分の服がどうかかわらなくなったり、別の服があるはずと探し、取捨つかなくなる。 L：できない。 M：できない。 M：シャツを何枚も着たり、夏なのにセーターを着たり衣類の調整ができない。同じものばかり選ぶ。新しい洋服だと自分のものでないと着衣拒否する。タンスの衣類をバラバラにして床などに出してしまう。衣類をまとめて荷造りしてしまう。衣類がないと「なくなった」と騒ぐ。	A：冬はコート類で補完、夏は複数枚のシャツを準備。 D：どれをとってもいいですよ。選択を見守る。 E：「今日は寒いね」「お祭りだね」と言って一緒に選ぶ。 F：ベッドに寝間着を準備する。衣類をほめるながら着替えを促す。 H：時間を伝える。外を見ながら昼間であることを伝える。 K：今日着る服と出しておく。 L：一緒に選びに行くか、ある程度セッティングしておく。 L：提供する。 M：好みを聞きながら介護者が用意する。 M：本人が選んでも声掛けして脱いでもらったり入浴時の着替えで衣類を整える。そのまま意向に沿って対応。家族から直接「買って来よう」と説明してもらう。介護者が管理できる程度の服をタンスに入れる。本人がいけないときに片づける。介護者が管理できる程度の服をタンスに入れ、そのほかは別で管理する。	7
080202	タンスや引き出しから取り出す	A：季節に合わせた服ではない。同じ服ばかり着る。 C：タンスの中のものを次々に出してしまい、周囲に散乱させる。 D：いつもの目の高さの引き出しに集中する。 E：全部出してしまふ。 G：基本的には職員にて準備する。 K：引き出して散らかしてしまふ。 L：できない：指示がわからない。 M：必要なものはとどかせない。	A：冬はコート類で補完、夏は複数枚のシャツを準備。 D：お気に入りハンガーなど。 E：名前シールをつける。 L：提供する。 M：介護者が行う。	8
080203	セット化する	A：季節に合わせた服ではない。同じ服ばかり着る。 C：下着(シャツ)ばかり着ようとする。 D：一度上下着をセットしても、再び自分で別のものを探す、繰り返す。 E：出来ないことが多い。 G：基本的には職員にて準備する。 H：下着ばかりを取り出す。 J：なくなっていると不安あり。いくつもセットにして持ち歩く。 L：できない：指示がわからない。 M：できない。	A：冬はコート類で補完、夏は複数枚のシャツを準備。 D：出すだけ出して、後でかたづけ。 E：セットを話しながら一緒に行う。 H：一緒に確認しながら行う。 J：一緒に確認していく(不安の解消)。 L：提供する。 M：介護者が好みをききながら行う。	4
080299	その他	G：基本的には職員にて準備する。 I：洋服タンスに福以外のものをしまいでいる。	I：タンスにラベルを貼る。定期で中身を確認。	

3) セットされたものを身につける

順番：下着から順に上の衣類に移ってゆく

個々の衣類：各パーツがわかる、前後、左右、裏表がわかる

着衣動作：かぶる、はく、前面・後面で合わせる

1. セーターなどかぶるタイプ

0803101	かぶる動作は適切か？	A：服の左右がわからない。 C：前後を判別できず「後ろ前」に着てしまふ。 D：着方がわからない。 E：手・首の区別がつかない。 F：パンツを頭からかぶる。修正すると怒る。 J：(袖ぐり・襟ぐり・裾の認識できない)。 K：衣類の前後ろを間違ふ。 M：できるが前後ろが逆になる。	A：介護者の手を袖に通しておき、誘導。 D：袖を通してから、頭を誘う。 E：着やすい形にして「此処に入れて」という。 F：すぐには行動を制止しない。困ったところを見計らって手伝う。 J：一部通してきかけを作る。 M：間違いを言い直してもらふ。	5
0803102	衣類の適切な部位に体のパーツが収まっているか？	B：順番に着られない。 C：首の部分から手を出し修正できない。 E：中の下着が丸まったままの状態。 G：パーツに体の部位が入っていないことがある。 H：袖に頭を入れる。 J：仕上がり悪さ。 L：できない：袖に頭をとおそうしたり。偶然に頭が通しても腕の通し方がわからず裾をいじる行為になるなど。	B：本人の着る順番にセットする。 E：ワーカーが引き出す。 G：上手く入らないパーツ部位は先に体を通す。 H：服を広げて渡す。着衣する前に着る順番(右袖→左袖→頭)を確認する。 J：鏡で確認。 L：頭をかぶせ袖口に手を誘導する。	5
0803109	その他	D：衣類の裏表が違ふ。 G：途中で手が止まってしまう。 H：前後を逆に着る。	D：伝える・気づく・見守り。 G：声かけし、動作を促す。 H：襟に「前・後」を記入する・襟の前にボタンを付ける。	2